

# 飛驒高山ビッグアリーナ空調設備設置工事

## 図 面 目 録

図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
M- 01	機械設備工事特記仕様書－ 1	E- 01	電気設備工事特記仕様書－ 1
M- 02	機械設備工事特記仕様書－ 2	E- 02	電気設備工事特記仕様書－ 2
M- 03	機械設備工事特記仕様書－ 3	E- 03	電気設備工事特記仕様書－ 3
M- 04	機械設備工事特記仕様書－ 4	E- 04	配置図（構内配電線路）
M- 05	機械設備工事特記仕様書－ 5	E- 05	受変電設備単線結線図・姿図（参考図）
M- 06	配置図	E- 06	高圧, 低圧動力系統図
M- 07	仮設計画図（参考図）	E- 07	分電盤結線図・凡例・配線表
M- 08	仮設足場計画図（参考図）	E- 08	高圧幹線 1 階平面図
M- 09	1 階全体平面図	E- 09	高圧幹線 2 階平面図
M- 10	空調機器一覧表	E- 10	高圧幹線 屋根平面図
M- 11	空調配管系統図	E- 11	動力設備 幹線、分岐（室外機配線） 1 階平面図
M- 12	2 階全体平面図（空調設備）	E- 12	動力設備 分岐（室内機配線） 2 階平面図
M- 13	2 階平面図（空調設備）		
M- 14	2 階全体平面図（自動制御設備）	参考図	【現況】空調機器一覧表－ 1
M- 15	2 階平面図（自動制御設備）	参考図	【現況】空調機器一覧表－ 2
M- 16	外構配置図	参考図	【現況】空調配管系統図
M- 17	外構詳細図	参考図	【現況】空調ダクト系統図
		参考図	【現況】 1 階平面図（空調設備配管）
		参考図	【現況】 2 階平面図（空調設備配管）
		参考図	【現況】 1 階平面図（空調設備ダクト）
		参考図	【現況】機械室平面詳細図(空調配管・ダクト)

A.工事概要

1 工事名称

飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事

2 主要用途

体育館

3 工事種別

・新築

・増築

・改築

・大規模改修

◎空調改修

4 工事場所

岐阜県高山市中山町 地内

5 都市計画法等

都市計画区域

◎都市計画区域内（

・市街化区域

・市街化調整区域

・その他

）

・都市計画区域外

◎都市計画公園

用途地域

・第一種低層住居専用地域

・第二種低層住居専用地域

・第一種中高層住居専用地域

・第二種中高層住居専用地域

・第一種住居地域

・第二種住居地域

・準住居地域

・近隣商業地域

・商業地域

・準工業地域

・工業地域

・工業専用地域

◎用途地域の指定のない区域

防火地域

・防火地域

・準防火地域

◎指定なし

その他の指定

・建築基準法第22条指定区域内

◎建築基準法第22条指定区域外

6 工事建物の概要

区 分	メインアリーナ				備 考
構 造	SRC造+一部S造				
階 数	地上2階				
床面積	9617.94 m2				
建築面積	8372.43 m2				
消防法施行令別表第一	(1)項 イ 観覧場				

7 工事種目

◎ 印の付いたものが対象工事

建物別及び屋外 工事種別	工 事 種 別					
◎ 空気調和設備	新設一式					屋 外 新設一式
・ 換気設備						
・ 排煙設備						
◎ 自動制御設備	新設一式					
・ 衛生器具設備						
・ 給水設備						
・ 排水通気設備						
・ 給湯設備						
・ 消火設備						
・ ガス設備						
・ 厨房器具設備						
・ さく井工事						
・ 浄化槽設備						
・ 昇降機設備						
・ その他設備						
◎ 電気設備（空調改修に伴うもの）	新設一式					新設一式
・						
・						
・						
・						
・						

8 別途工事

・建築工事

一式

・電気設備工事

一式

・昇降機設備工事

一式

・電話工事

一式

・搬送設備工事

一式

・解体工事

一式

B.工事仕様書

1 一般仕様

1）新設工事共通仕様書（A. 7 工事種目において新設・増設一式とあるもの）  
（1）特記仕様、図面及び現場説明書（現場説明に対する質問回答書を含む）に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和7年版）及び公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和7年版）による。  
（2）電気設備工事を本工事に含む場合、電気設備工事の仕様書を適用する。

2）改修工事共通仕様書（A. 7 工事種目において改修・撤去一式とあるもの）  
（1）特記仕様書、図面及び現場説明書（現場説明に対する質問回答書を含む）に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和7年版）及び公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和7年版）による。  
（2）電気設備工事を本工事に含む場合、電気設備工事の仕様書を適用する。

3）設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次の（1）～（5）の順番とおりとする。  
（1） 質問回答書  
（2） 現場説明書  
（3） 特記仕様  
（4） 図面  
（5） 標準仕様書及び標準図

2 特記仕様

1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。  
2）特記事項のうち選択する事項は、◎印の付いたものを適用する。  
3）受注者は、南海トラフ地震防災対策推進地域における工事にあっては、南海トラフ地震に関連する情報（臨時）が気象庁から出された場合には、工事中断の措置をとるものとし、これに伴う必要な補強・落下防止等の保全処置を講じなければならない。  
上記事実が発生した場合は、契約書第27条（臨機の措置）の規定による。  
妨害又は不当要求に対する通報義務

3 不当介入における  
通報義務

1）受注者は契約の履行に当たって、暴力団関係者等から、事実関係及び社会通念等に照らして合理的な理由が認められない不当若しくは違法な要求又は契約の適正な履行を妨げる妨害を受けたときは、警察へ通報をしなければならない。なお、通報がない場合は入札参加資格を停止することがある。  
2）受注者は、暴力団等による不当介入を受けたことにより、履行期間内に業務を完了することができないときは、発注者に履行期間の延長を請求することができる。

章	項 目	特 記 事 項
1 一 般 共 通 事 項	① 提出書類	本工事の施工に関して提出する書類は、発注者が受注者に提示する。
	② 工事実績情報の登録 （コリンズ）	工事請負金額500万円以上（消費税込）の工事について、工事実績情報を登録することとする。（登録先（財）日本建設情報総合センター）
	③ 概成工期	総合試運転を行う上で、関連工事を含めた各工事が工期のおおむね10日前までに支障のない状況まで完了していること。
	④ 電気保安技術者	◎ 配置する。 ・ 配置しない。
	⑤ 事故報告	工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通知するとともに、事故発生報告書を監督員に速やかに提出すること。
	⑥ 機材等	1. 本工事に使用する設備機材等は、設計図書に定める品質および性能を有する新品とする。 ただし、仮設工事材料、リサイクル製品及び特に指定したものは新品に限らない。 これらの機器、機材は監督員の承諾を受け施工する。  2. 主要材料については、契約後、速やかに主要機材の製作所名等一覧表を提出し、監督員の確認を受ける。  3. 設計図書に記載してあるもの及び監督員の指示する材料、仕上げの程度、色合い等については、あらかじめ見本を提出して確認を受ける。  使用する機材が、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(3)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。
	⑦ 機材の品質・性能証明	
	⑧ 機器姿図	姿図の形状及び寸法は、概略を示す。
	⑨ 再生資源利用計画書 及び再生資源利用促進計画書の提出	建設リサイクル法の実施に係る岐阜県指針に基づき、工事着手時に再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画書を、また、工事完了時に同計画書の実施報告書を監督員に提出するものとする。（コブリス・プラス）
	⑩ 電気工事士	・ 最大電力500kw以上の場合、第一種電気工事士のより施工を行う。 ◎ 最大電力500kw未満の場合、第一種電気工事士又は認定電気工事従事者により施工を行う。
	⑪ 技能士	1）技能士の適用は、次の職種による。 ・ 配管（建築配管作業） ◎ 熱絶縁施工（保温保冷工事作業） ・ 建築板金（ダクト板金作業） ◎ 冷凍空調調和機器施工（冷凍空調調和機器施工作業） ・ 空気圧縮装置組立て（空気圧縮装置組立て作業） ・ 塗装 ・ さく井（ ・ パーカッション式さく井工事作業 ・ ロータリー式さく井工事作業 ） ・ 鉄工（ ・ 製缶作業 ・ 構造物鉄工作業） 2）本工事は前項で指定する職種別に1名以上の一級技能士又は単一等級の資格を有する技能士が作業をするとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	機械設備工事特記仕様書ー1		
縮 尺	－	番 号	37 枚の内 M-01号
設 計 年 月 日	令和8年5月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



1

一般共通事項

39

はつり

40

天井仕上区分

41

他工事との工事区分

42

電線類

43

施工条件

44

騒音・振動の防止

45

排出ガス対策  
建設機械の使用

46

鋼材等

47

事故再発防止策

既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、図面に特記のない場合はダイヤモンドカッターによる。  
穴開けを行う際は、超音波探査等の機器で鉄筋、電線管等の探査を行う。  
( ) 書き又は△を頭に付した室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。  
図面に特記なき場合は、別表-1「他工事との取合い区分表」による。ただし、これにより難い場合は監督員と協議する。  
電線及びケーブルの規格は標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。  
電線類は、EMケーブルを使用する。(機器、盤類を除いてもよい。)  
設計図書に施工時間が定められていない場合で、官公庁の休日又は夜間に工事の施工を行う場合は、あらかじめ理由を付した書面によって監督員に通知する。(事前に工程表等により提出されている場合は不要とする。)  
本工事においては「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」(平成9年7月31日建設省告示第1536号、最終改正 平成13年4月9日国土交通省告示第487号)に基づき指定された低騒音型・低振動型建設機械を使用する。ただしこれにより難い場合は、監督員と協議する。  
本工事においては、排出ガス対策型建設機械指定要領に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用する。ただしこれにより難い場合監督員と協議する。  
屋外で使用する鋼材等は、( )・溶融亜鉛めっき仕上げ ( )・ステンレス鋼材 ( )とする。  
(1) 安全施設の使用・設置  
安全施設の使用・設置は関係法令等を順守するほか次のとおり講じなければならない。  
1) 原則、昇降用梯子で作業しないこと。ただし、やむを得ず作業する場合は、作業する高さに関わらず墜落制止用器具を使用すること  
2) 墜落制止用器具は一連の作業において親綱の架け替えが生じる場合は、本作業用、補助用の2丁掛としなければならない。  
(2) 定期安全訓練・研修等  
受注者は、工事着手後、作業員全員の参加により月当たり、4時間以上の時間を割当て、次の各号から実施する内容を選択し、定期的に安全に関する研修・訓練等を実施しなければならない。  
さらに、工事内容や現場状況に応じて、過去の事故事例集の活用により  
工事現場で予想される事故防止対策を必ず実施すること。  
1.安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育 2.当該工事内容等の周知徹底  
3.工事安全に関する法令、通達、指針等の周知徹底  
4.当該工事における災害対策訓練 5.その他、安全・訓練等として必要な事項

2

工種別工事概要

1

空調設備  
メインアリーナ

2

自動制御設備

電気式ヒートポンプパッケージエアコンの単独系統による空調を行う。  
室外機は最寄りの屋外設置とし一般利用者に配慮した配置とする。  
室内機は設備用床置き型とし防振に配慮する。  
パッケージ型の空調機器の制御は集中制御コントローラーにより状態監視・遠隔管理を行う。  
管理はビッグアリーナ管理事務室で行うものとし、設置位置は図示による。

3

空気調和設備

1

設計温湿度

2

熱源方式

3

ばいじん量測定口

4

ばい煙濃度計取付座

5

ダクト

6

チャンバー

7

ダンパー

8

風量測定口

9

配管材料

10

弁類

11

温度計

12

瞬間流量計

13

油面制御装置

14

保温及び消音内貼

15

吊钩設置工事  
あと施工アンカー  
〔機械5.1.3〕

振れ止め

外 気				屋内（調整目標値）				
	全 て				一 般 系 統			
	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)
夏季	34.4℃	45.1%	℃	%	25.0℃	成行	℃	%
冬季	-7.6℃	82.6%	℃	%	15.0℃	成行	℃	%

・ 空気熱源水蓄熱ヒートポンプチャラー

・ ガス焚き冷温水発生機

○ 空気熱源電気ヒートポンプパッケージ

・ 床暖房設備 ( )・ 潜熱蓄熱材方式 ( )

・ 設けない ( )・ 設ける (測定口は80mm以上とし、取り付け箇所は煙導の直線部とする)

・ 設ける ( )・ 設けない ( )

・ 低圧ダクト ( )・ コーナーボルト工法 (長辺の長さが1,500mm以下の部分) ( )・ 共板フランジ工法 ( )・ スライドオンフランジ工法 ( )・ アングルフランジ工法 ( )・ スパイラルダクト ( )・ グラスウールダクト ( )

・ 高圧1ダクト (適用範囲は図示による)

(1)内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。  
(2)空気調和機に取り付けるサブライチャンバー、レタンチャンバー及びダクト系で消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設置し寸法は図示による。  
(3)外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。  
(1)防煙ダンパー 復帰方式 ( )・ 遠隔 (定格入力はDC24V、0.7A以下) ( )  
(2)ピストンダンパー 復帰方式 ( )・ 遠隔 ( )  
図示の位置に取り付ける。  
(1)冷温水管 ( )・ 配管用炭素鋼鋼管 (白) ( )・ ステンレス鋼管 (SUS304) ( )・ 架橋ポリエチレン管 (20A以下) ( )  
(2)冷却水管 ( )・ 配管用炭素鋼鋼管 (白) ( )  
(3)空調用排水管 ( )・ 配管用炭素鋼鋼管 (白) ( )・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ( )・ 結露防止層付硬質ポリ塩化ビニル管 ( )  
(4)冷媒管 ( )・ 断熱材被覆銅管 ( )・ 製造者標準仕様 ( )・ 液管10mmガス管20mm ( )  
(5)膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管は配管用炭素鋼鋼管 (白)とする。  
(6)加湿用給水管 ( )・ ステンレス鋼管 ( )・ ポリ粉体鋼管 (PA又はPB) ( )・ 塩ビライニング鋼管 (VA又はVB) ( )  
(7)蒸気管 ( )・ 給気管 ( )・ 配管用炭素鋼鋼管 (黒) ( )・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (黒) Sch40 ( )・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (黒) Sch80 ( )  
(8)油管 ( )・ 配管用炭素鋼鋼管 (黒) ( )  
(1)冷温水コイル廻り (標準図) の弁は ( )・ 仕切弁 ( )・ バタフライ弁 ( )とする。  
(2)蒸気加熱コイル廻り (標準図) の弁は仕切弁とする。  
温度計は ( )・ 円形指示計 (バイメタル式) ( )・ L形温度計 ( )とする。  
瞬間流量計はピトー管方式によるもので止水コック付とし、形式及び取付部は下記による。  
形式は、( )・ 固定式 ( )・ 着脱式 ( )  
着脱式の場合、(40A ( )個 100A ( )個 )を付属する。  
取付部 ( )・ ユニット形空気調和機 ( )・ 冷温水ポンプ ( )・ 冷却水ポンプ ( )  
( )・ ヘッダーの各送り管 ( )・ ヘッダーの各返り管 ( )  
制御盤には ( )・ 給油ポンプ制御 ( )・ 返油ポンプ制御 ( )・ 満油警報 ( )・ 遠隔警報 ( )・ 電磁弁制御 ( )・ 漏えい検知警報 ( )・ 減油警報 ( ) ( )の端子を設ける。  
なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。  
また、フロートスイッチ部はステンレス鋼製 (油面検出部)とする。  
下記によるほか、標準仕様書第2編3.1.4による。  
・ 建物内の空気抜き管の保温は標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項により、空気抜き対象管から空気抜き弁までとする。  
・ 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。  
○ 空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の排水管の項による。  
○ 冷媒管の保温外装は下記による。(但し、天井内、機械室内、PS内は保温外装不要)  


屋内露出	○ 保温化粧ケース (材質：樹脂製 丸形 )	・ 合成樹脂製カバー
屋外露出	○ 保温化粧ケース (材質：樹脂製 丸形 )	・ カラー亜鉛鉄板 ( )・ 溶融7μミニウム亜鉛鉄板 ( )・ ステンレス鋼板 ( )

・ 暖房室及びその天井内を通る外気ダクトには保温を行う (保温の厚さ 25mm)

・ 還りダクトの保温要 (保温の厚さ 25mm、範囲は図示による)

・ 外気ダクトの保温要 (保温の厚さ 25mm、範囲は全周)

・ 排気ダクトの保温要 (保温の厚さ 25mm、範囲は図示による)

空調室内機1箇所につき1本の引張試験を行うこと。室外機も同様とし、許容引抜荷重は室外機毎に算出したアンカー耐震計算書による。  
また、目視、接触、打音による全数検査を行うこと。 標準図 (機械設備工事編) 施工19   

	M10	
おねじ形	埋込深さ	45mm
メネジアンカー	許容引抜荷重 (長期)	2,500N

吊钩の吊り長さが1mを超え1.5m以内の場合には、吊钩4本で構成される4面に×状の斜材を締め具で堅固に取り付ける。  
斜材は吊钩と同等以上の強度の金属材料とする。

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	機械設備工事特記仕様書-3		
縮 尺	—	番 号	37 枚の内 M-03号
設 計 年 月 日	令和8年5月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

4 鉄 筋 工 事	① 鉄筋の種類 (表5. 2. 1)	※JIS G 3112 のJIS表示認証製品 鉄筋の種類 ○下記表による ・構造設計標準仕様書 2章 (3)鉄筋の表による																																																																																									
	2 溶接金網 (5. 2. 2)	※JIS G 3551 のJIS表示認証製品 溶接金網 ・下記による ・構造設計標準仕様書 2章 (3)鉄筋の表による 網目の形状、寸法及び径 (mm) ・150x150x4 施工場所 ( )																																																																																									
	3 柱・梁の鉄筋の継手 (5. 3. 4)	鉄筋の継手 ・構造設計標準仕様書 2章 (3)鉄筋の表による ・ガス圧接 (SD295Aは不可) ・重ね継手 ・機械式継手 ・溶接継手 継手位置 ※鉄筋工事仕様書による。 ・各部配筋参考図 ・																																																																																									
	4 梁貫通孔補強	貫通孔補強 ※鉄筋工事仕様書による。 ・各部配筋参考図 ・																																																																																									
	5 圧接完了後の検査 (5. 4. 9)	検査方法 ※超音波深傷試験 ・引張試験																																																																																									
	6 柱の帯筋	柱の帯筋 ・構造設計標準仕様書 5章 (2)柱の帯筋 (H00P)の加工方法による ・組み立ての形はS P形とする。(鉄筋工事仕様書による) ・H型 (タガ型) ・W型 (溶接型) ・I 形 ・Ⅱ形 ・Ⅲ形) ・丸形																																																																																									
	5 コ ン ク リ ー ト 工 事	① コンクリートの強度 (6. 2. 2) (6. 2. 4) (表6. 2. 2)	コンクリート ○下記による ・構造設計標準仕様書 2章 (1)コンクリートの表による ※普通コンクリート	<table><tr><th>設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>スランプ (cm)</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>※ 21 ・ 21</td><td>18 15</td><td>基礎</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	適 用 箇 所	※ 21 ・ 21	18 15	基礎																																																																																	
		設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	適 用 箇 所																																																																																							
		※ 21 ・ 21	18 15	基礎																																																																																							
(6. 10. 1～6. 10. 4)		※経量コンクリート	<table><tr><th>設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>種類</th><th>スランプ (cm)</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td></td><td>・ 1 種 ・ 2 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※構造体コンクリートの強度は、材令91日において設計基準強度以上とする。 ※屋根床版のスランプは 15 cmとする。	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	種類	スランプ (cm)	適 用 箇 所		・ 1 種 ・ 2 種																																																																																		
設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )		種類	スランプ (cm)	適 用 箇 所																																																																																							
		・ 1 種 ・ 2 種																																																																																									
② コンクリートの類別 (6. 2. 1) (表6. 2. 1)	※ I 類 ・ II 類																																																																																										
③ 水セメント比 (6. 3. 2)	※最大値は65%とする (低熱ポルトランドセメント及び混合セメントB種の場合は60%)																																																																																										
④ コンクリート 中の塩化物量 (6. 3. 2)	※0.30kg/m <sup>3</sup> 以下																																																																																										
⑤ コンクリート のアルカリ総量 (6. 5. 4)	・アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、 コンクリート中の総アルカリ量を 3.0 kg/m <sup>3</sup> 以下とする。																																																																																										
⑥ コンクリート の仕上り (6. 2. 5) (表6. 2. 3) (6. 9. 6)	打放し仕上げの種類 ※合板せき板を使用する場合	<table><tr><th>種 別</th><th>せき板の種類</th><th>表面・せき板の程度</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>・ A 種</td><td>J A S (表面加工品)</td><td>表6. 2. 4</td><td>※ 図示 ・</td></tr><tr><td>※ B 種</td><td>J A S B－C</td><td>表6. 2. 4</td><td>・</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td>J A S B－C</td><td>表6. 2. 4</td><td>・</td></tr></table>	種 別	せき板の種類	表面・せき板の程度	適 用 箇 所	・ A 種	J A S (表面加工品)	表6. 2. 4	※ 図示 ・	※ B 種	J A S B－C	表6. 2. 4	・	・ C 種	J A S B－C	表6. 2. 4	・																																																																									
種 別	せき板の種類	表面・せき板の程度	適 用 箇 所																																																																																								
・ A 種	J A S (表面加工品)	表6. 2. 4	※ 図示 ・																																																																																								
※ B 種	J A S B－C	表6. 2. 4	・																																																																																								
・ C 種	J A S B－C	表6. 2. 4	・																																																																																								
⑦ コンクリートの材料 (6. 3. 1)	セメント ☑普通ポルトランドセメント ・混合セメントA種 混和材料 ※A E 剤、A E 減水剤又は高性能A E 減水剤 ( J I S A 6204) ※フライアッシュ ( J I S A 6201) I 種、Ⅱ種若しくはⅣ種 ※高炉スラグ微粉末 ( J I S A6206) ※シリカフューム ( J I S A6207) 又は膨張材 ( J I S A6202)																																																																																										
⑧ コンクリート 製造工場の選定 (6. 4. 1)	※コンクリート製造工場の選定は、監督員の承諾を受ける。																																																																																										
⑨ 強度 (6. 3. 2) (表6. 3. 2)	構造体強度補正值 S (N/mm <sup>2</sup> )	<table><tr><th colspan="2"></th><th>4～10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th colspan="3">1 月</th><th colspan="3">2 月</th><th colspan="3">3 月</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>全 て</th><th>上 旬</th><th>中 旬</th><th>下 旬</th><th>上 旬</th><th>中 旬</th><th>下 旬</th><th>上 旬</th><th>中 旬</th><th>下 旬</th><th>上 旬</th><th>中 旬</th><th>下 旬</th></tr><tr><td>セメント</td><td>地域</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>普通ポルトランドセメント</td><td>一般地域</td><td>3.0</td><td colspan="3"></td><td colspan="3">6.0</td><td colspan="3"></td><td colspan="3">3.0</td></tr><tr><td>早強ポルトランドセメント</td><td>北部地域</td><td>3.0</td><td colspan="3"></td><td colspan="3">6.0</td><td colspan="3"></td><td colspan="3">3.0</td></tr><tr><td></td><td>その他</td><td>3.0</td><td colspan="3"></td><td colspan="3">6.0</td><td colspan="3"></td><td colspan="3">3.0</td></tr></table> ・一般地域： ・北部地域： ・その他： ○飛騨地域基準による			4～10月	11月	12月	1 月			2 月			3 月					全 て	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	セメント	地域														普通ポルトランドセメント	一般地域	3.0				6.0						3.0			早強ポルトランドセメント	北部地域	3.0				6.0						3.0				その他	3.0				6.0						3.0		
		4～10月	11月	12月	1 月			2 月			3 月																																																																																
		全 て	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬																																																																													
セメント	地域																																																																																										
普通ポルトランドセメント	一般地域	3.0				6.0						3.0																																																																															
早強ポルトランドセメント	北部地域	3.0				6.0						3.0																																																																															
	その他	3.0				6.0						3.0																																																																															
10 暑中コンクリート (6. 12. 1～6. 12. 4)	※日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 構造体強度補正值 S (N/mm <sup>2</sup> ) 6.0 N/mm <sup>2</sup>																																																																																										
11 寒中コンクリート (6. 11. 1～6. 11. 6)	適用期間 ( )																																																																																										
5 コ ン ク リ ー ト 工 事	⑫ コンクリートの強度試験 (6. 9. 1～6. 9. 5)	※「建築標準仕様書」表 6. 9. 2 による。																																																																																									
	⑬ 外部に面する コンクリート 打放し仕上	※打増厚さ (mm) ※20 ○図示による																																																																																									
	⑭ 型枠のせき板 (6. 8. 3)	せき板の材料 ※合板 (12mm) ・合板 (15mm) ・ ・床型枠用鋼製デッキプレート (実績等の資料を提出 ) ・メッシュ型枠 ( 25mm以下かつ熱抵抗値 1mh℃/Kcal 以上 ) ・断熱材兼用型枠 ( ) ・M C R 工法用シート ( 気泡発泡ポリエチレンシート )																																																																																									
	15 マスコンクリート (6. 13. 2)	セメントの種類 ( ) 適用箇所 ( )																																																																																									
	16 水密コンクリート	<table><tr><th>水セメント比 ( /wt)</th><th>スランプ (cm)</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>※ 50 ・</td><td>※ 15 ・</td><td></td></tr></table>	水セメント比 ( /wt)	スランプ (cm)	適 用 箇 所	※ 50 ・	※ 15 ・																																																																																				
	水セメント比 ( /wt)	スランプ (cm)	適 用 箇 所																																																																																								
	※ 50 ・	※ 15 ・																																																																																									
	17 打継部	止水板 止水ゴムの製造所 ( ) 適用箇所 ( ) 打継ぎ目地 ※図示 ・幅2 0 mm以上 深さ1 0 mm以上 ・																																																																																									
	18 無筋コンクリート (6. 14. 1～6. 14. 3)	適用箇所 ・図示 ※「建築標準仕様書」 6. 14. 1 による 粗骨材の最大寸法 (捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合) ※25mm ・ コンクリートの品質	<table><tr><th>種 類</th><th>設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>スランプ (cm)</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>普通コンクリート</td><td>18</td><td>・ 15 ・ 18 ・ ・</td><td>・捨コン ・配管埋設用コンクリート</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種 類	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	適 用 箇 所	普通コンクリート	18	・ 15 ・ 18 ・ ・	・捨コン ・配管埋設用コンクリート																																																																																
	種 類	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	適 用 箇 所																																																																																							
普通コンクリート	18	・ 15 ・ 18 ・ ・	・捨コン ・配管埋設用コンクリート																																																																																								
19 流動化コンクリート (6. 15. 1～6. 15. 3)	・適用 ( )																																																																																										
6 舗 装 工 事	① 路床 (22. 2. 2) (表3. 2. 1) (22. 2. 3)	遮断層 ※適用しない ・適用する ( 厚 mm ) フィルター層 ※適用しない ○適用する ( 厚 110mm ) 路床安定処理 ※適用しない ・ 路床の盛土材料 ・A 種 ※B 種 ・C 種 ・D 種 路床の試験 C B R 試験 ・行わない ※行う 路床締固め度の試験 ・行わない ※行う 砂の粒度試験 ※行わない ・行う																																																																																									
	② 路盤 (22. 3. 2) (22. 3. 3)	路盤の構成 ○車道部：100、歩道部：100 ・図示による 材料 ○砕石クラッシュラン ・※再生材クラッシュラン ・クラッシュラン鉄鋼スラグ ・ (22. 3. 5) 締固め度の試験 ・行わない ※行う																																																																																									
	③ アスファルト舗装 (22. 4. 2) (22. 4. 3)	舗装厚 車道部 ○50 (基層なし) ・40 歩道部 ・30 ・ アスファルト ・再生アスファルト ・ストレートアスファルト																																																																																									
	4 コンクリート舗装 (22. 5. 2) (22. 5. 3)	加熱アスファルト混合物等の種類 表層 ※密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 基層 ※粗粒度アスファルト混合物 (20) ・ シールコート ・行う ※行わない 切り取り検査 ※行う ( 箇所) ・行わない アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない																																																																																									
	(22. 5. 6)	コンクリート舗装の仕様 舗装厚 ・150 コンクリート ・ 目地材 ・ 溶接金網 ・使用する (150口×6φ) ・使用しない コンクリート版の厚さの試験 ・行う ・行わない																																																																																									
	5 カラー舗装 (22. 6. 2)	舗装厚及び種類 ※アスファルト混合物 車道部 ・50 (基層なし) ・ 歩道部 ・30 ・ 切り取り検査 ※行う ( 箇所) ・行わない																																																																																									
	6 透水性 アスファルト舗装 (22. 7. 2)	舗装の構成及び厚 車道部 (ポリマー改質アスファルトⅠ型) ・50 歩道部 (ストレートアスファルト) ・30																																																																																									
	7 ブロック系舗装 (22. 9. 2～5)	・インターロッキングブロック舗装 基層 ・コンクリート舗装 クッション材 ※砂 ・から練りモルタル 種類、形状 ・ 製造所																																																																																									
	⑧ 浸水性豆砂利舗装	○舗装厚：40mm ・図示による																																																																																									
	7 植 栽 工 事	① 植栽地の確認 (23. 1. 3)	土壌の水素イオン濃度、水溶性塩類等の試験 ・行う ※行わない																																																																																								
② 植栽基盤 (23. 2. 2) (表23. 2. 1)		植栽基盤 ・適用する ○適用しない (ただし、芝及び地被類の植栽の場合は整備する) 有効土層の厚さ (cm)	<table><tr><th colspan="4">樹 木</th><th>低 木</th><th rowspan="2">芝、地被類</th></tr><tr><th colspan="2">高</th><th colspan="2">木</th><th>3 m未満</th></tr><tr><td>樹 高</td><td>12m以上</td><td>7～12m</td><td>3～7 m</td><td>3 m未満</td><td></td></tr><tr><td>有 効 土 層</td><td>※100 ・ ・</td><td>※80 ・ ・</td><td>※60 ・ ・</td><td>※50 ・ ・</td><td>※20 ・ ・</td></tr><tr><td>工 法</td><td>樹木</td><td>※A 種 ・A 種</td><td>・B 種 ※B 種</td><td>・C 種 ・C 種</td><td>・D 種 ・D 種</td></tr><tr><td>土壌改良材</td><td></td><td colspan="4">※バーク堆肥 ・污泥発酵肥料 (下水コンポスト)</td></tr></table> 支柱材 支柱材 ※杉の焼丸太 ・竹 種類 ※コウライシバ ・ノシバ	樹 木				低 木	芝、地被類	高		木		3 m未満	樹 高	12m以上	7～12m	3～7 m	3 m未満		有 効 土 層	※100 ・ ・	※80 ・ ・	※60 ・ ・	※50 ・ ・	※20 ・ ・	工 法	樹木	※A 種 ・A 種	・B 種 ※B 種	・C 種 ・C 種	・D 種 ・D 種	土壌改良材		※バーク堆肥 ・污泥発酵肥料 (下水コンポスト)																																																								
樹 木				低 木	芝、地被類																																																																																						
高		木		3 m未満																																																																																							
樹 高		12m以上	7～12m	3～7 m	3 m未満																																																																																						
有 効 土 層		※100 ・ ・	※80 ・ ・	※60 ・ ・	※50 ・ ・	※20 ・ ・																																																																																					
工 法		樹木	※A 種 ・A 種	・B 種 ※B 種	・C 種 ・C 種	・D 種 ・D 種																																																																																					
土壌改良材			※バーク堆肥 ・污泥発酵肥料 (下水コンポスト)																																																																																								
3 支柱材		支柱材 ※杉の焼丸太 ・竹																																																																																									
④ 芝		種類 ※コウライシバ ・ノシバ																																																																																									
⑤ 新樹木、芝 地被類の枯補償	新樹木の枯補償期間 ( ※1年 ・年 ) 芝、地被類の枯補償期間 ( ※1年 ・年 )																																																																																										
6 移植樹木の枯損処理	移植樹木の枯損処理を行う期間 ( ※1年 ・年 )																																																																																										
7 既存樹木の伐採	・敷地内の樹木の伐採は伐根も含むものとする																																																																																										
⑧ 低木	○4本/m <sup>2</sup> 現況と同様の密植とする																																																																																										
			<table><tr><td>工事名</td><td colspan="3">飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事</td></tr><tr><td>図 名</td><td colspan="3">機械設備工事特記仕様書ー 4</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td>－</td><td>番 号</td><td>37 枚の内 M-04号</td></tr><tr><td>設 計 年 月 日</td><td colspan="3">令和8年5月</td></tr><tr><td>設 計</td><td colspan="3">株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹</td></tr><tr><td colspan="4">高 山 市</td></tr></table>	工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事			図 名	機械設備工事特記仕様書ー 4			縮 尺	－	番 号	37 枚の内 M-04号	設 計 年 月 日	令和8年5月			設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹			高 山 市																																																																			
工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事																																																																																										
図 名	機械設備工事特記仕様書ー 4																																																																																										
縮 尺	－	番 号	37 枚の内 M-04号																																																																																								
設 計 年 月 日	令和8年5月																																																																																										
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹																																																																																										
高 山 市																																																																																											



8  
追  
記  
事  
項

①建設機械

1) 本工事においては、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年7月31日建設省告示第1536号、最終改正平成16年9月24日国土交通省告示第1151号)に基づき指定された建設機械を使用する。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議の上、必要書類を提出するものとする。  
2) 本工事においては、「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日建設省経機発第249号、最終改正平成14年4月1日国総施第225号)」に基づき指定された建設機械を使用する。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年建設技術評価制公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」又はこれと同等の開発目的で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策機械と同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。  
排出ガス対策建設機械、又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。

②軽微な変更等

現場の納まり、取り合い等の関係による協議の中で、形状、寸法等の軽微な変更は、監督員の指示による。なお、この場合の請負金額の変更は行わない

③下請契約

本工事において、下請契約を締結する場合には、「高山市公契約条例」(平成30年4月1日施行)に基づき、当該契約の相手方を高山市内に本店(建設業法(昭和24年法律第100号)に規定する主たる営業所含む。)を有する者の中から選定するよう努めること。  
下請け業者の選定に当たっては高山市入札参加資格停止の処置がされていないこと。

④事故報告

工事施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督員に通報するとともに、事故発生報告書を監督員に提出する。

⑤重点監督対象工事

当該工事が高山市重点監督対象工事となった場合は、その取扱いによるものとする。

⑥経年検査

建築竣工引渡後1年が経過した時点において係員立合のもとで1年検査を行い、工事不良の為生じたと認められる損害等についても、係員の指示に従い改修しなければならない。  
なお、その費用については請負者の負担とする。

⑦損害保険

工事中出来高部分と工事現場に搬入した工事材料・建築設備の機器などに火災保険または建設工事保険を付し、その証券の写しを監督職員に提出する。  
1) 損害の補填条件  
a. 火災、落雷、爆発又は破裂  
b. 台風、旋風、暴風、暴風雨の風災  
2) 保険金  
原則として請負金額とする。  
3) 保険の期間  
保険の加入の時期は、原則として工事着工のととし、終期は工事完成後15日までとする。  
4) 協議  
この取扱いにより難い事項については、必要に応じて請負者は、監督職員と協議するものとする。

⑧実施状況の提出について

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目について、事前に計画書を提出し監督職員の確認を得た上で実施し、実施後に実施報告を提出することができる。

⑨工事着手前協議について

1) 本工事の受注者は、契約後1～2週間以内に設計書内容等について、監督員と工事着手前協議を行うこと。  
2) 協議に当たっては、別に定める「施工打ち合わせ記録簿」に協議事項を記入し、打ち合わせに持参すること。なお、協議日の設定については、受注者側が事前に監督員と連絡をとり設定しておくこと。  
3) 協議に当たって、発注者側は監督員及び担当係長又は課長、受注者側は現場代理人及び主任技術者が出席するものとする。  
4) 協議時、「施工打ち合わせ記録簿」の回答(その他)欄は監督員が記入し、最後に確認を行い監督員・担当係長又は課長の確認印を押印し、写しを現場代理人(主任技術者)が受け取ること。

⑩電子メールの利用

本工事の施工中における受発注者間の情報共有は、電子メールを利用すること。運用にあたっては、「電子メールを活用した情報共有における運用指針」による他、工事着手前協議時に監督員と協議の上、決定するものとする。

⑪ディーゼルエンジン車両の適正燃料の使用について

1) ディーゼルエンジンを動力とする車両にはJIS規格の軽油を使用すること。  
2) ディーゼルエンジンを動力とする車両の燃料検査があった場合には協力すること。

⑫工事書類の簡素化

1) 実施にあたっては「工事書類簡素化要領」(技191号平成22年6月30日改正)に基づいて実施することができる。



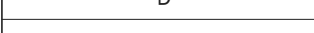
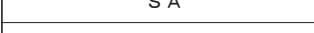


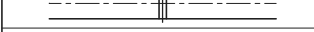






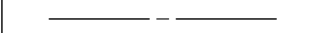

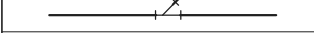


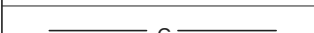



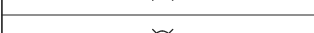


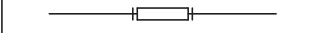
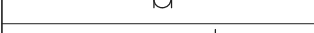
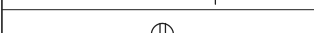
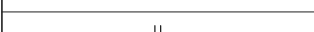


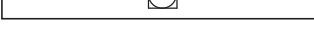







⑬提出書類等

高山市ホームページ上に示された書類とし、監督員協議によりその一部を省略することができる。

⑭施工中の安全確保

1) 「建築基準法」「労働安全衛生法」その他関係法令等に定めるところによるほか、「建設工事公衆災害防止対策要綱建築工事編」に従うとともに「建設工事安全施工技術基準指針」を参考に施工に伴う災害及び事故の防止に努める。  
2) 安全委員会の組織を構成するとともに、「日常活動(安全朝礼・ミーティング・KY活動 工事打合せ等)」及び「月例行事(安全バトロール・安全協議会・安全大会等)」の実施と記録を行う。

【凡 例】  
図中に記載される記号は下記の参考による、なお備考欄は仕様等を示し詳細は特記による。  
本工事に該当しないものはこの限りではない。

記 号	名 称	備 考
	冷媒用被服鋼管	断熱材被覆鋼管(被覆厚 液管10mm・ガス管20mm)
	ドレン配管	(屋内一般): 結露防止層付硬質ポリ塩化ビニル管
	ドレン配管(屋外露出)	(屋外露出): 配管用炭素鋼鋼管・SGP白
	サブライダクト	
	レタダクト	
	外気取入ダクト	
	排気ダクト	
	角ダクト	亜鉛鉄板(JIS-G-3302)
	丸ダクト	スパイラルダクト(JIS-G-3302)
	パイプフード	ステンレス製 丸形フラット ガラリ・防虫網(給気)・(FD)付 指定色塗装
	ベンドキャップ	ステンレス製 ガラリ・防虫網(給気)・(FD)付 指定色塗装
	屋外角形フード	ステンレス製 角型スリム ガラリ・(FD)付 指定色塗装
	防火区画貫通部(床面)	配管防火区画床処理材による区画処理 (認定番号 PS060FL-1043)
	防火区画貫通部(壁)	配管防火区画壁処理材による区画処理 (認定番号 PS060WL-0774)
	給水管	(屋外埋設): 水道用高密度ポリエチレン管(PWA-001~005)
	給水管	(屋内一般・機械室): 水道用ポリライニング鋼管(JWWAK-116・PB)
	給水管	(屋内埋設部): 水道用ポリライニング鋼管(JWWAK-116・PD)
	排水管	(屋内一般・便所): 硬質ポリ塩化ビニル管(JIS-K-6741・VP)
	排水管	(屋外埋設): 硬質ポリ塩化ビニル管(JIS-K-6741・VP)
	通気管	(屋内一般・機械室・便所): 硬質ポリ塩化ビニル管(JIS-K-6741・VP)
	給湯管	一般配管用ステンレス鋼管(JIS-G-3448)
	ガス供給管	(屋外埋設): ガス用ポリエチレン管
	ガス供給管	(屋内一般): 配管用炭素鋼鋼管・SGP白
	ガス供給管	(屋内・屋外露出): ポリエチレン被覆鋼管
	混合水栓	
	単水栓	
	フラッシュバルブ	
	散水栓	B-1
	弁 類(給水用)	
	逆止弁(給水用)	加圧給水ポンプユニット附属品
	フレキシブル継手	ステンレス製ベローズ形
	防振継手	ゴム製 球形
	通気口	VC-S2 VC-B1 VA-2
	床上掃除口	COA(一般床用) CIR(シート露出防水用) CIQ(塗膜防水床用)
	床排水口	D
	床下掃除口	CO
	小口径塩ビ製汚水樹	
	小口径塩ビ製雨水樹	
	コンクリート製汚水樹	

【防火区画貫通部 施工要領図】

保温が必要な配管

保温が必要ない配管

※ 区画貫通処理については、建築基準法施行令112条20項による。

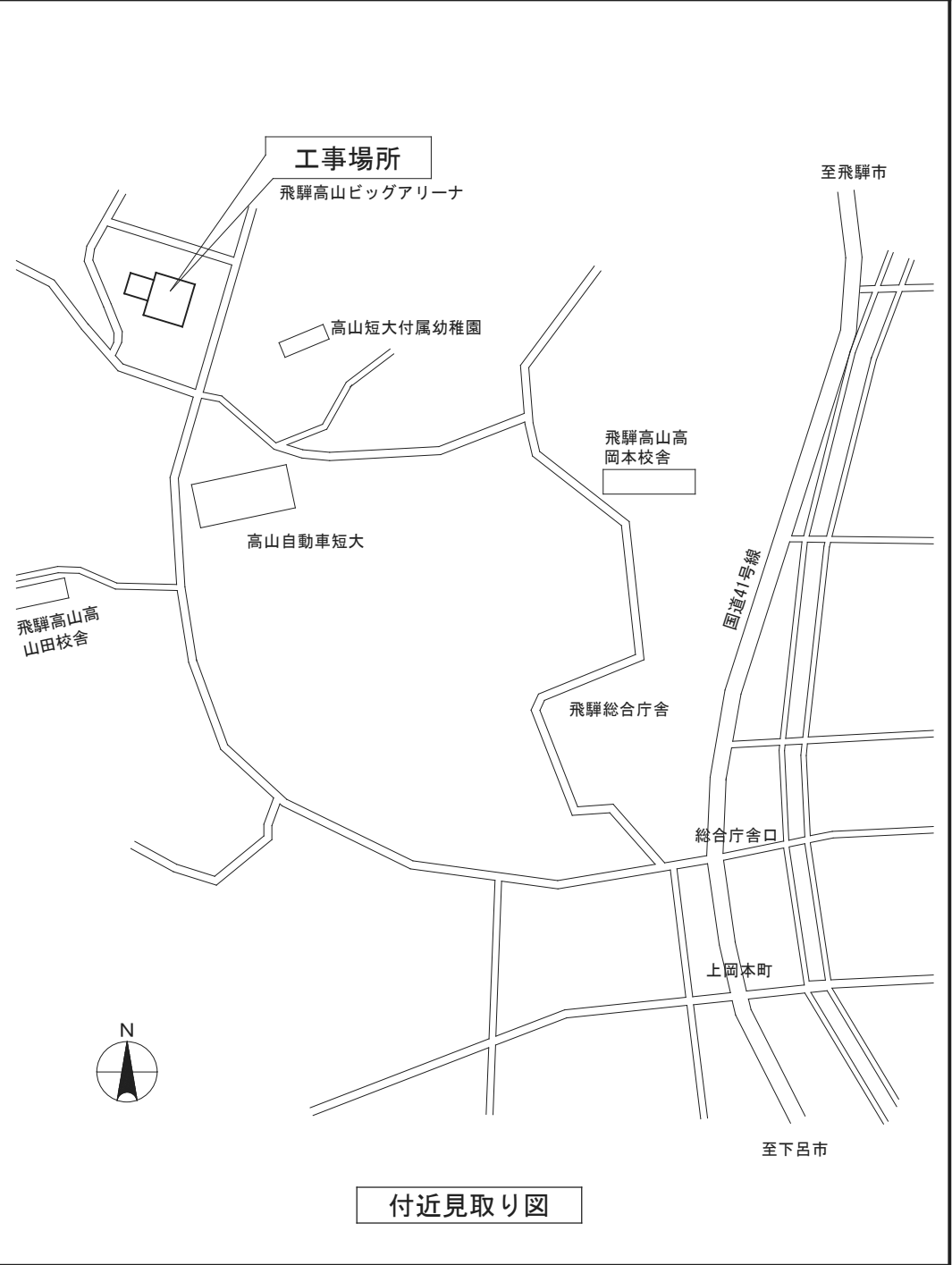
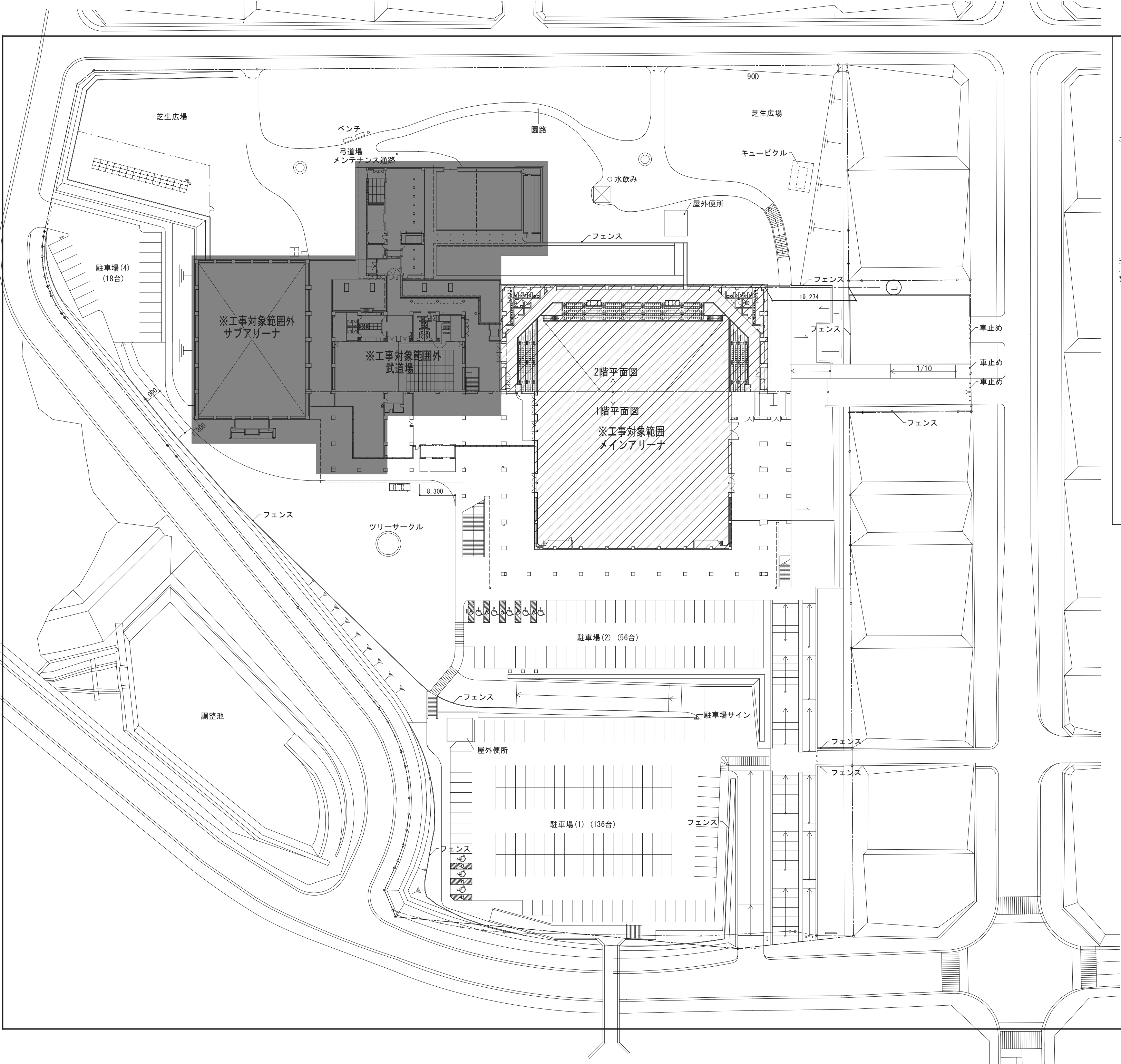
ダクト

平鋼(短管に溶接)

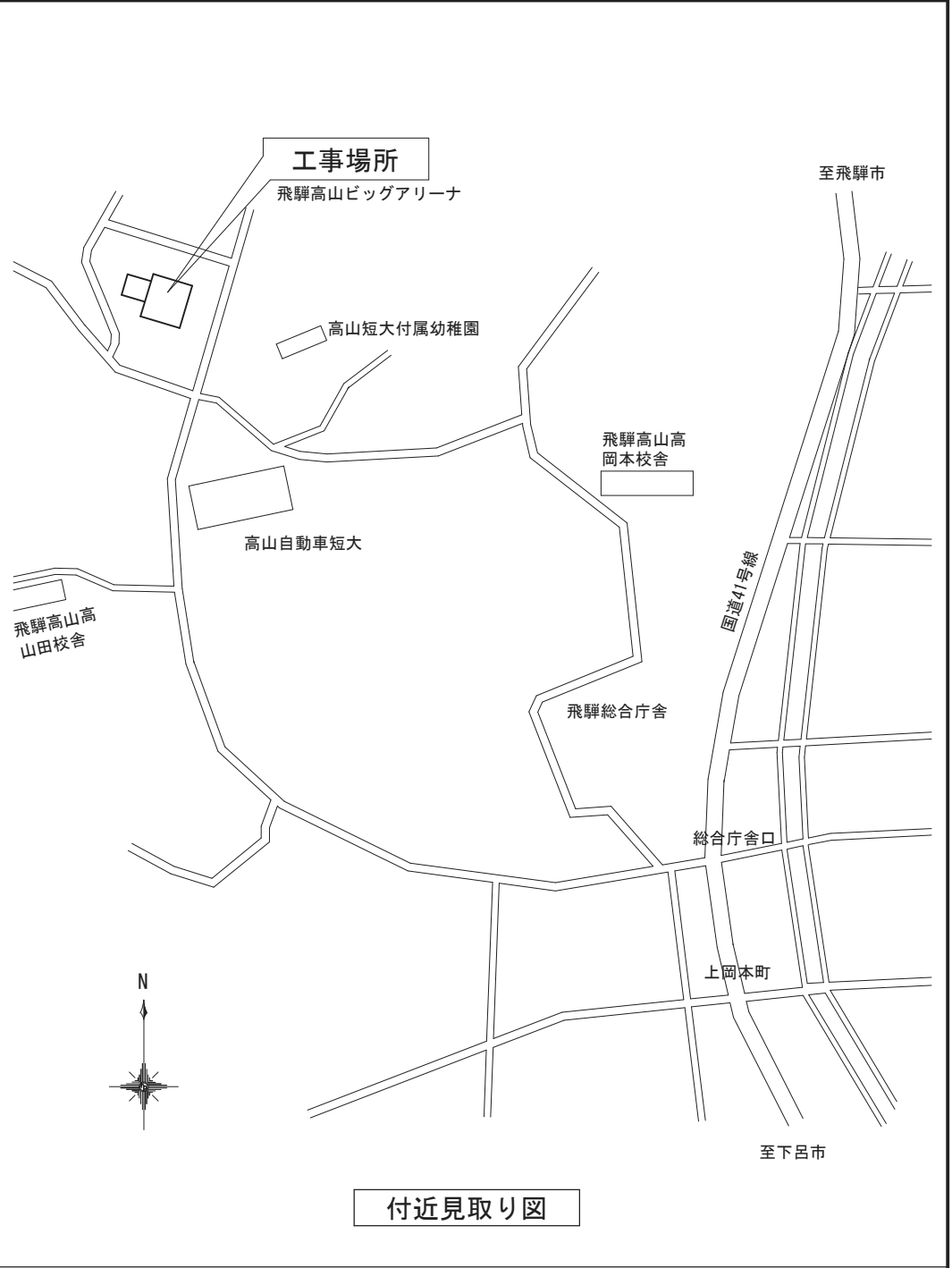
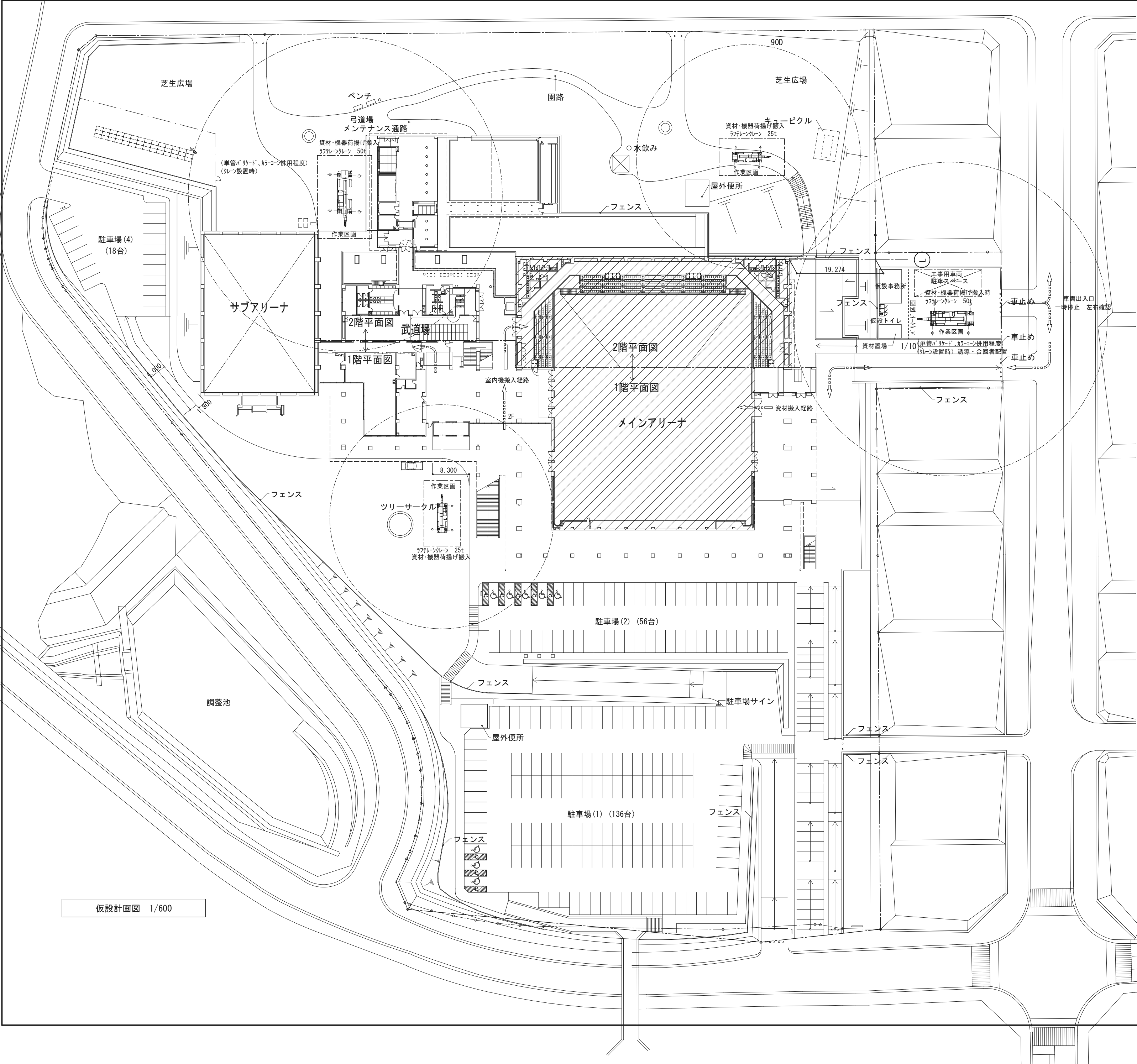
溶接

ダクト 1. 5mm以上の鉄板又は鉄鋼モルタル等で被覆した短管等を設ける

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事			
図 名	機械設備工事特記仕様書ー5			
縮 尺	ー	番 号	37 枚の内	M-05号
設 計 年 月 日	令和8年5月			
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹			
高 山 市				



工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	配置図		
縮 尺	1/600	番 号	37 枚の内 M-06 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

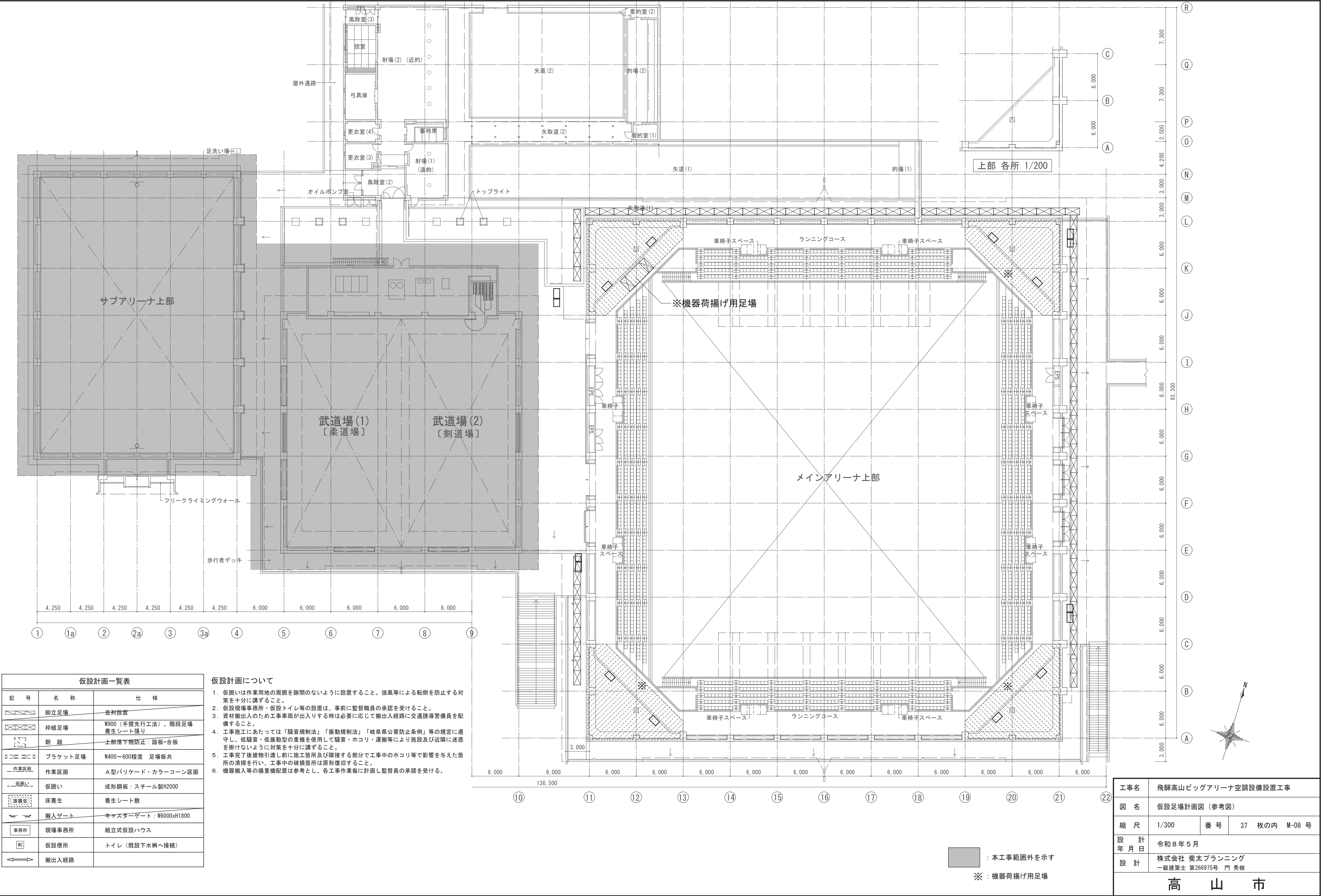


仮設計画一覧表		
記 号	名 称	仕 様
	脚立足場	並列設置
	枠組足場	W900（手摺先行工法）、階段足場 養生シート張り
	朝 顔	上部落下物防止：踏板+合板
	ブラケット足場	W400～600程度 足場板共
	作業区画	A型バリケード・カラーコーン区画
	仮囲い	成形鋼板：スチール製H2000
	床養生	養生シート敷
	搬入ゲート	キャスターゲート：W6000xH1800
	現場事務所	組立式仮設ハウス
	仮設便所	トイレ（既設下水樹へ接続）
	搬出入経路	

- 仮設計画について
- 仮囲いは作業用地の周囲を隙間のないように設置すること。強風等による転倒を防止する対策を十分に講ずること。
  - 仮設現場事務所・仮設トイレ等の設置は、事前に監督職員の承認を受けること。
  - 資材搬出入のため工事車両が出入りする時は必要に応じて搬出入経路に交通誘導警備員を配備すること。
  - 工事施工にあたっては「騒音規制法」「振動規制法」「岐阜県公害防止条例」等の規定に遵守し、低騒音・低振動型の重機を使用して騒音・ホコリ・運搬等により施設及び近隣に迷惑を掛けないように対策を十分に講ずること。
  - 工事完了後建物引渡し前に施工箇所及び隣接する部分で工事中のホコリ等で影響を与えた箇所の清掃を行い、工事中の破壊箇所は原形復旧すること。
  - 機器搬入等の揚重機配置は参考とし、各工事作業毎に計画し監督員の承諾を受ける。

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	仮設計画図（参考図）		
縮 尺	1/600	番 号	37 枚の内 M-07 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

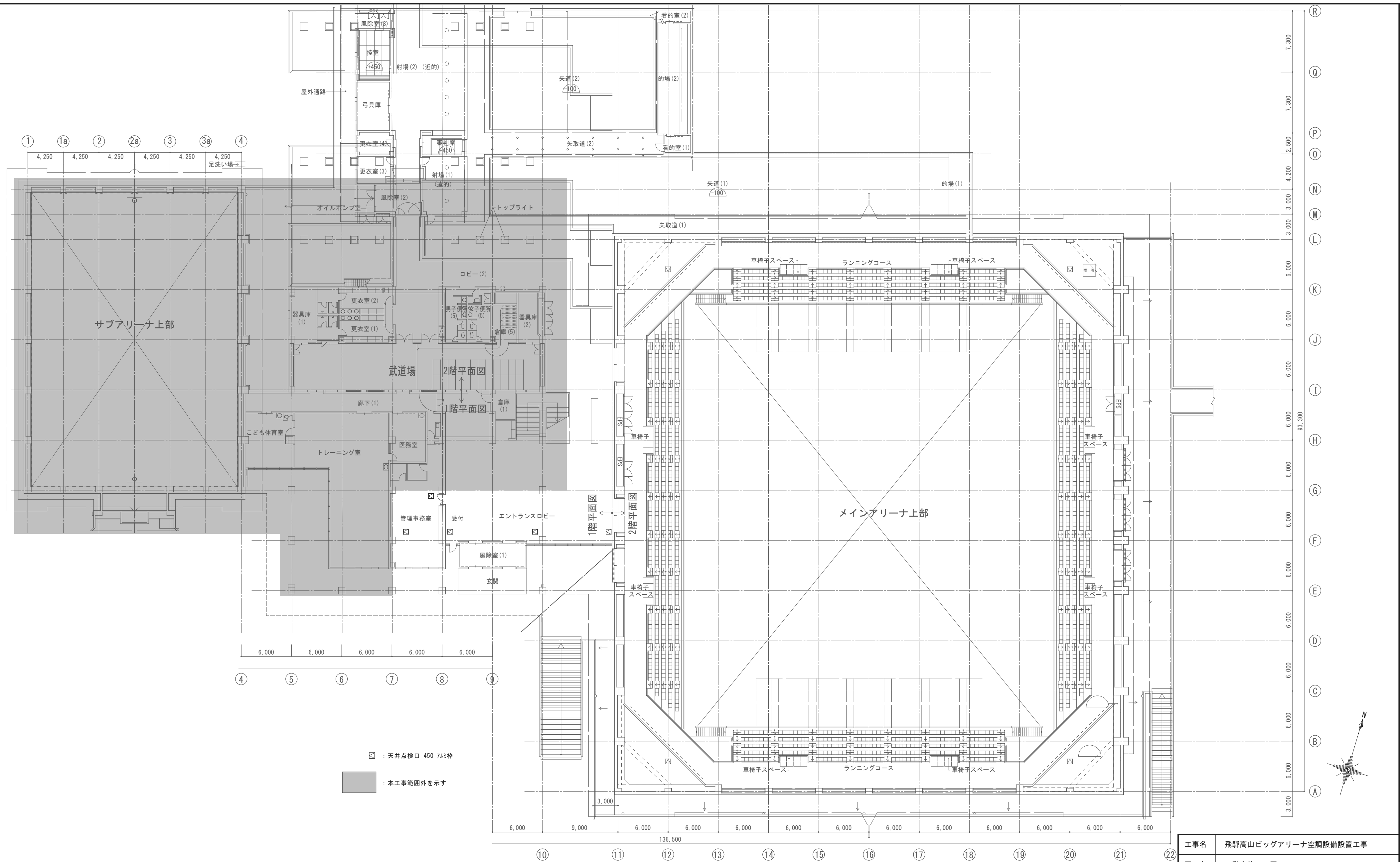




仮設計画一覧表		
記 号	名 称	仕 様
	脚立足場	並列設置
	枠組足場	W900（手摺先行工法）、階段足場養生シート張り
	朝 顔	上部落下物防止：踏板+合板
	ブラケット足場	W400～600程度 足場板共
	作業区画	A型バリケード・カラーコーン区画
	仮囲い	成形鋼板：スチール製H2000
	床養生	養生シート敷
	搬入ゲート	キャスターゲート：W6000xH1800
	現場事務所	組立式仮設ハウス
	仮設便所	トイレ（既設下水桝へ接続）
	搬出入経路	

- 仮設計画について
- 仮囲いは作業用地の周囲を隙間のないように設置すること。強風等による転倒を防止する対策を十分に講ずること。
  - 仮設現場事務所・仮設トイレ等の設置は、事前に監督職員の承認を受けること。
  - 資材搬出入のため工事車両が出入りする時には必要に応じて搬出入経路に交通誘導警備員を配備すること。
  - 工事施工にあたっては「騒音規制法」「振動規制法」「岐阜県公害防止条例」等の規定に遵守し、低騒音・低振動型の重機を使用して騒音・ホコリ・運搬等により施設及び近隣に迷惑を掛けないように対策を十分に講ずること。
  - 工事完了後建物引渡し前に施工箇所及び隣接する部分で工事中のホコリ等で影響を与えた箇所の清掃を行い、工事中の破損箇所は原形復旧すること。
  - 機器搬入等の揚重機配置は参考とし、各工事作業毎に計画し監督員の承諾を受ける。

工 事 名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	仮設足場計画図（参考図）		
縮 尺	1/300	番 号	37 枚の内 M-08 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



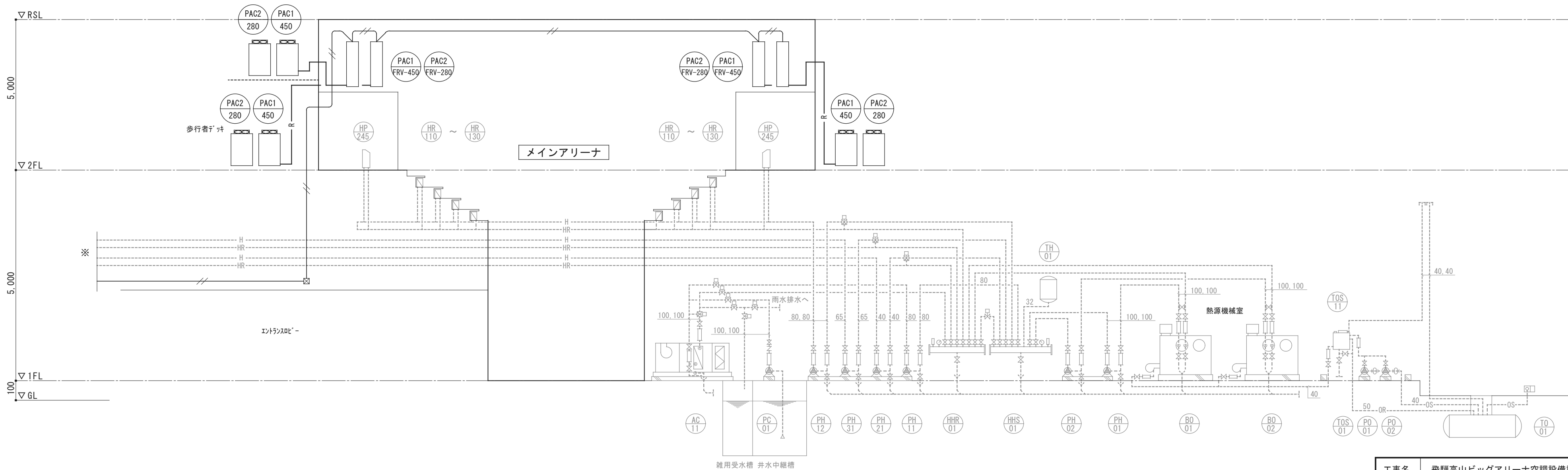
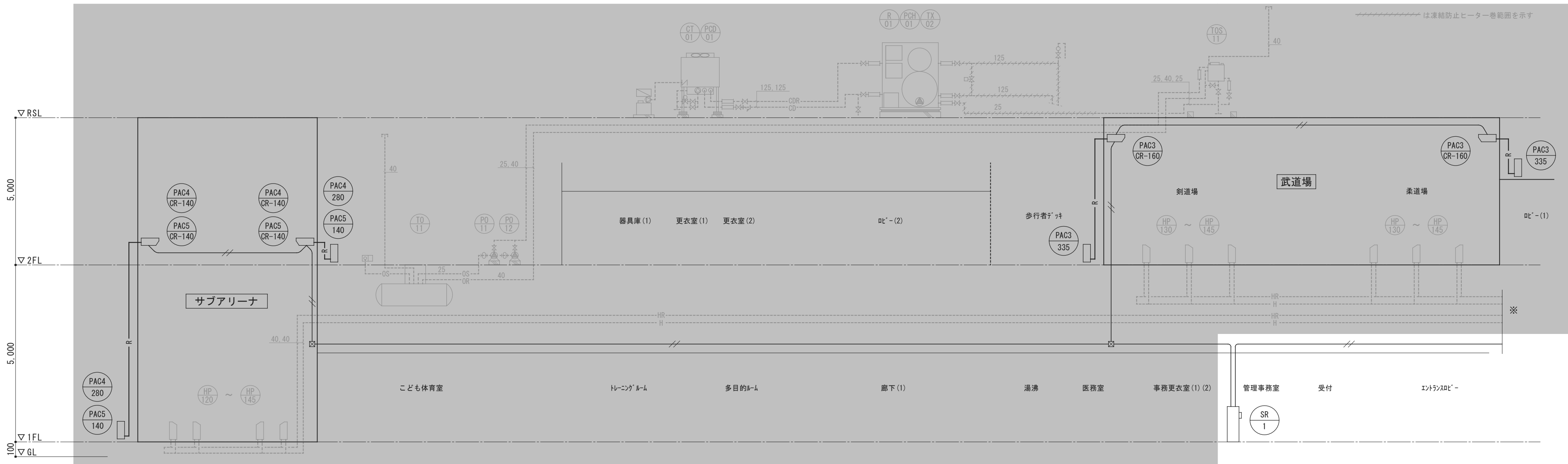
工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	1 階全体平面図		
縮 尺	1/300	番 号	37 枚の内 M-09 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

【空 調 機 器 一 覧 表】

共通事項 特記なき限り下記仕様による					
1. 能力表示	JIS B 8616条件	7. 室内機型式	FRV：設備用床置き型 CR：天吊形		
2. 室外機型式	インバーター対応	8. 室内外制御	室外機・室内機間の連絡ケーブル（EM-CEE1.25 <sup>□</sup> -2G）		
3. 冷媒ガス	R410A、R32	9. 集中制御	管理事務所へ集中コントローラ設置		
4. フィルター	メーカー標準ロングライフフィルター	10. その他	機器の仕様は公共建築標準仕様 電気容量は参考値とする		
5. 室内機付属品	（床置き）吸込ロングライフフィルター、ワイヤードリモコン、フレキシブルハンマー、防振架台、室内機転倒防止施工（天吊）壁面取付用ブラケット架台、ドレンアップ機、ワイヤードリモコン、防球ガード（サグアリーナのみ）		品番は参考品番とする		
6. 室外機付属品	防雪フード（吹出し側） 室外機転倒防止措置				
記 号	名 称	仕 様	電 源 ブレーカ容量	数量	備 考
PAC1-450	空冷ヒートポンプエアコン	パッケージ型エアコン 一般空調用 インバータ式 床置壁レート型 ベルトラス方式 冷暖兼用 直吹き型	3φ200V	4	RP-AP450CHVD
FRV-450	R410A	冷房能力 40.0kW（45.0kW） 消費電力 14.1kW（最大）	（室外）75A		メインアリーナ
		暖房能力 45.0kW（50.0kW） 消費電力 11.3kW 低温 16.3kW（最大）	（室内）30A		
		通年エネルギー消費効率（APF2015） 3.9			
		圧縮機（室外機）5.43×2kW			
		送風機（室内機）3.7×1kW （室外機）0.39×2kW			
		室内機風量 125m3/min 機外静圧 30Pa			
		平置架台（300H）防振架台			
PAC2-280	空冷ヒートポンプエアコン	パッケージ型エアコン 一般空調用 インバータ式 床置壁レート型 ベルトラス方式 冷暖兼用 直吹き型	3φ200V	4	RP-AP280CHVD
FRV-280	R410A	冷房能力 25.0kW（28.0kW） 消費電力 7.90kW（最大）	（室外）50A		メインアリーナ
		暖房能力 28.0kW（31.5kW）（低温時25.2kW） 消費電力 7.08kW 低温 9.63kW（最大）	（室内）15A		
		通年エネルギー消費効率（APF2015） 4.8			
		圧縮機（室外機）6.43kW			
		送風機（室内機）2.2×1kW （室外機）0.28×1kW			
		室内機風量 75m3/min 機外静圧 30Pa			
		平置架台（300H）防振架台			
PAC3-335	空冷ヒートポンプパッケージエアコン	天井吊込形	3φ200V	4	RPC-GP335RGHP5
CR-160x2	R32 同時タイ	冷房能力 30.0（7.5～33.5）kW 消費電力 11.9kW APF2015 4.4	（室外）50A		武道場
		暖房能力 33.5（8.4～37.5）kW 消費電力 10.4kW 低温 11.2kW（最大）			
		圧縮機出力 7.20kW 送風機出力（内）0.160×1）×2kW（外）0.17×1+0.17×1kW			
		高置架台（500H）			
PAC4-280	空冷ヒートポンプパッケージエアコン	天井吊込形	3φ200V	4	RPC-GP280RGHP5
CR-140x2	R32 同時タイ	冷房能力 25.0（7.2～28.0）kW 消費電力 8.23kW APF2015 5.0	（室外）50A		サグアリーナ
		暖房能力 28.0（7.0～35.0）kW 消費電力 7.53kW			
		圧縮機出力 6.85kW 送風機出力（内）0.160×1）×2kW（外）0.17×1+0.17×1kW			
		高置架台（500H）			
PAC5-140	空冷ヒートポンプパッケージエアコン	天井吊込形	3φ200V	2	RPC-GP140RGH8
CR-140	R32 シングル	冷房能力 12.5（3.1～14.0）kW 消費電力 3.58kW APF2015 6.0	（室外）30A		サグアリーナ
		暖房能力 14.0（3.5～18.2）kW 消費電力 3.56kW			
		圧縮機出力 2.30kW 送風機出力（内）0.160×1kW（外）0.07×1+0.07×1kW			
		高置架台（500H）			
SR-1	集中コントローラ	セントラリスーション適温適所EZ メーカー標準仕様	1φ100/200V	1	PSC-A64GT4
		タッチパネル式 64リモコングループ H-LINKⅡ対応品			事務室
		各種設定機能 監視機能 スケジュール機能			

：本工事範囲外を示す

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事			
図 名	空調機器一覧表			
縮 尺	－	番 号	37 枚の内 M-10 号	
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月			
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹			
高 山 市				



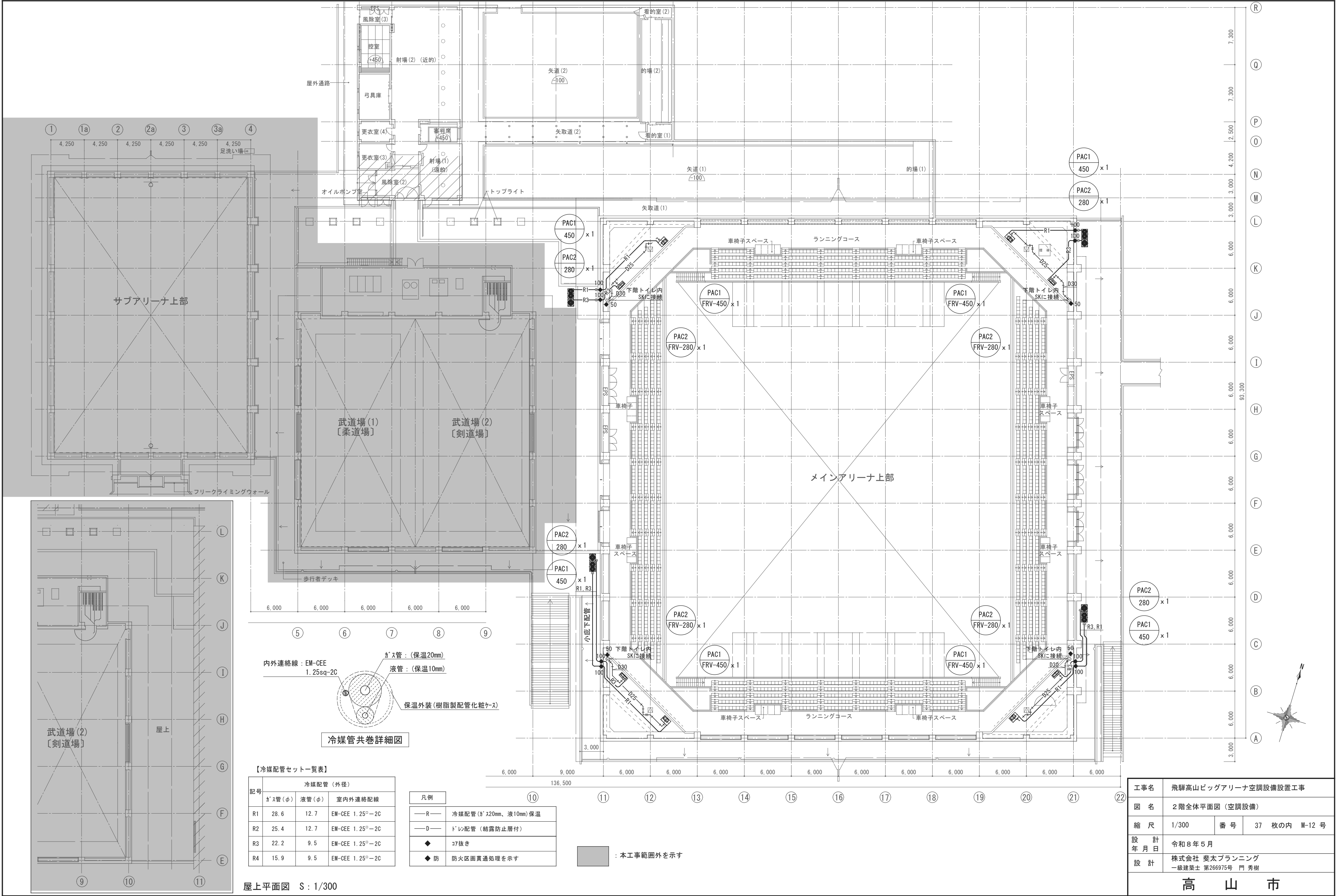
：本工事範囲外を示す

：既存配管を示す

：集中制御配線

— R —：冷媒配管

工 事 名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	空調配管系統図		
縮 尺	－	番 号	37 枚の内 M-11 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

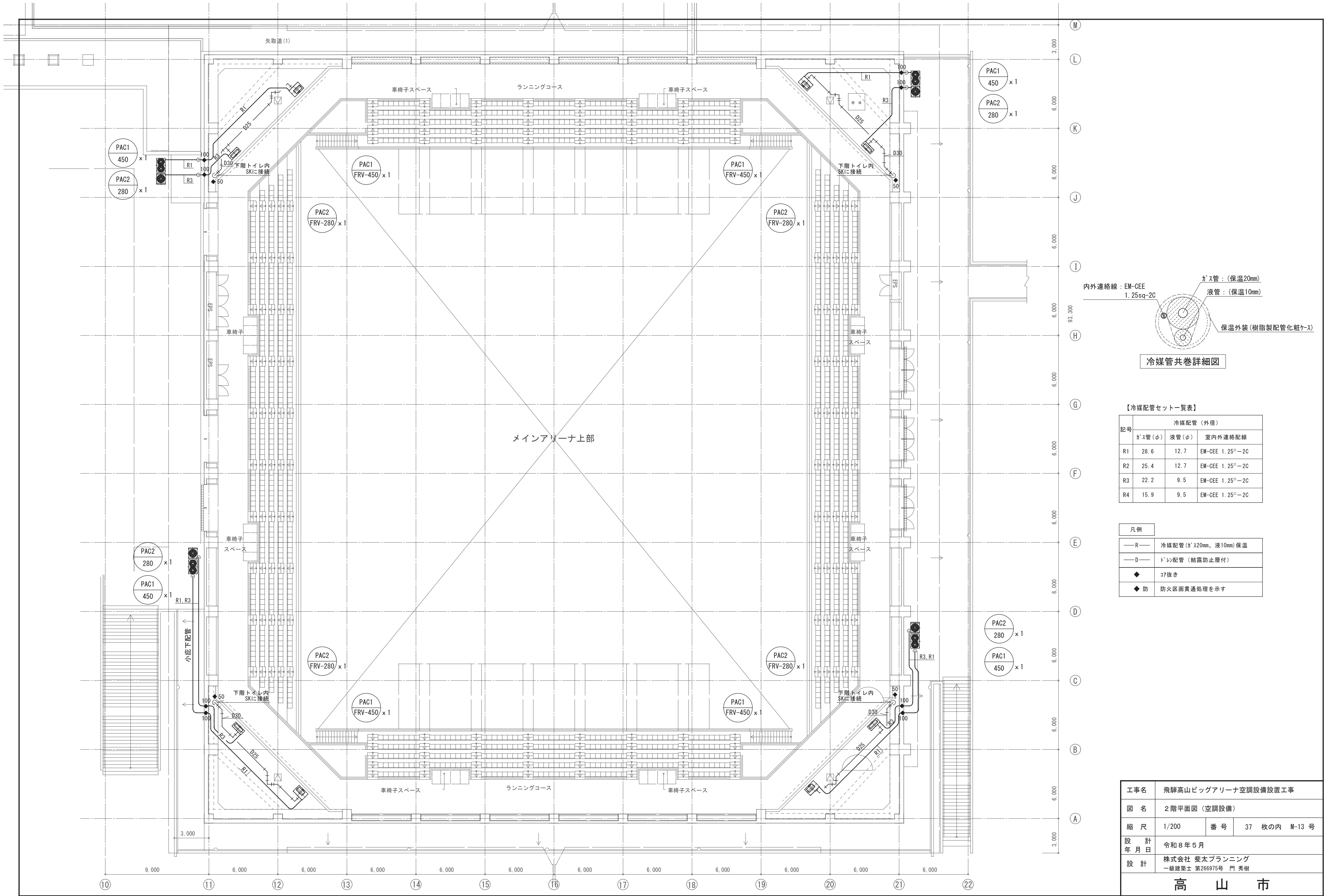


【冷媒配管セット一覧表】			
記号	冷媒配管 (外径)		
	ガス管 (φ)	液管 (φ)	室内外連絡配線
R1	28.6	12.7	EM-CEE 1.25 <sup>o</sup> -2C
R2	25.4	12.7	EM-CEE 1.25 <sup>o</sup> -2C
R3	22.2	9.5	EM-CEE 1.25 <sup>o</sup> -2C
R4	15.9	9.5	EM-CEE 1.25 <sup>o</sup> -2C

凡例	
—R—	冷媒配管 (ガス20mm、液10mm) 保温
—D—	ドレン配管 (結露防止層付)
◆	コブ抜き
◆防	防火区画貫通処理を示す

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	2 階全体平面図（空調設備）		
縮 尺	1/300	番 号	37 枚の内 M-12 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

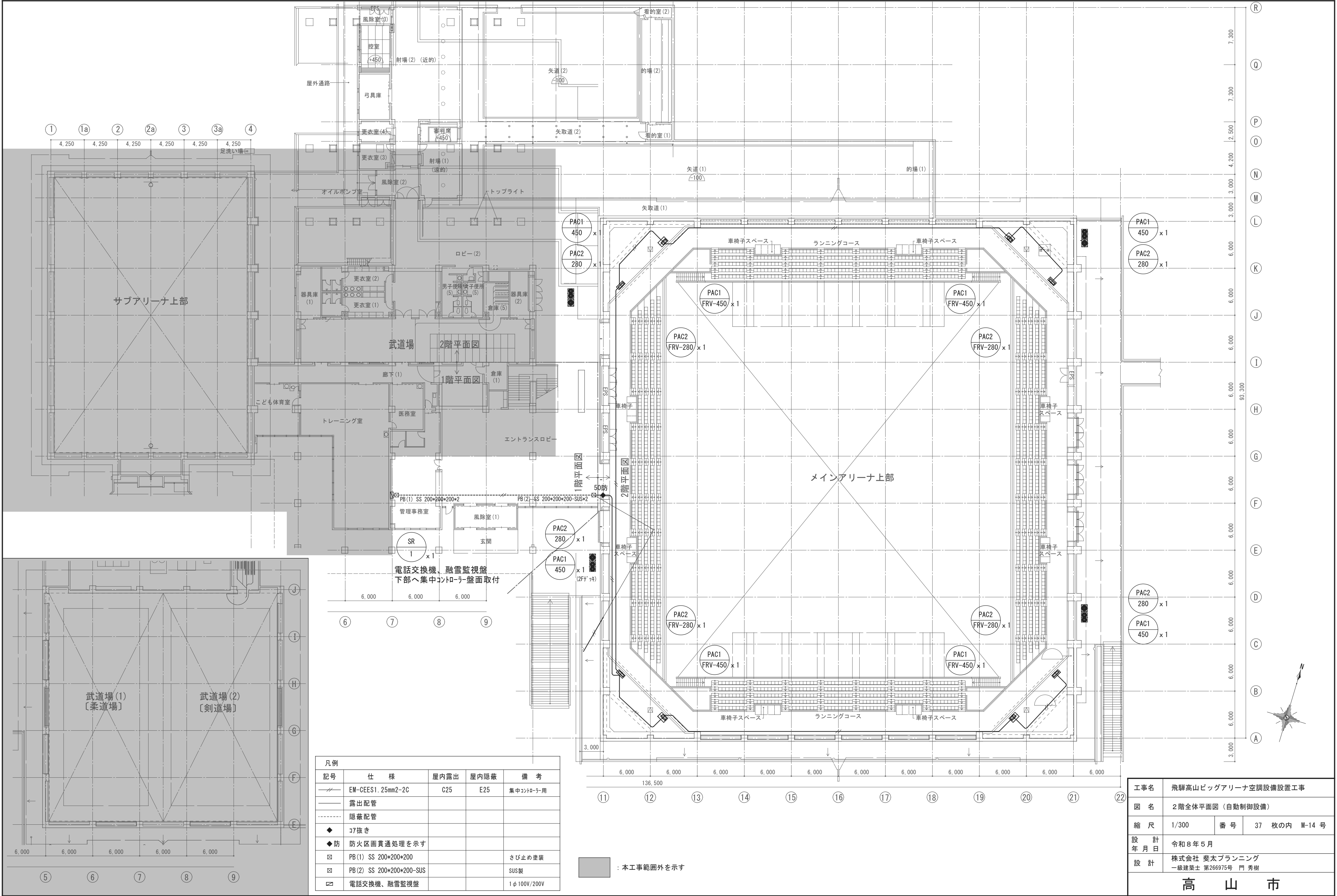




【冷媒配管セット一覧表】			
記号	冷媒配管（外径）		
	ガス管（φ）	液管（φ）	室内外連絡配線
R1	28.6	12.7	EM-CEE 1.25°-2C
R2	25.4	12.7	EM-CEE 1.25°-2C
R3	22.2	9.5	EM-CEE 1.25°-2C
R4	15.9	9.5	EM-CEE 1.25°-2C

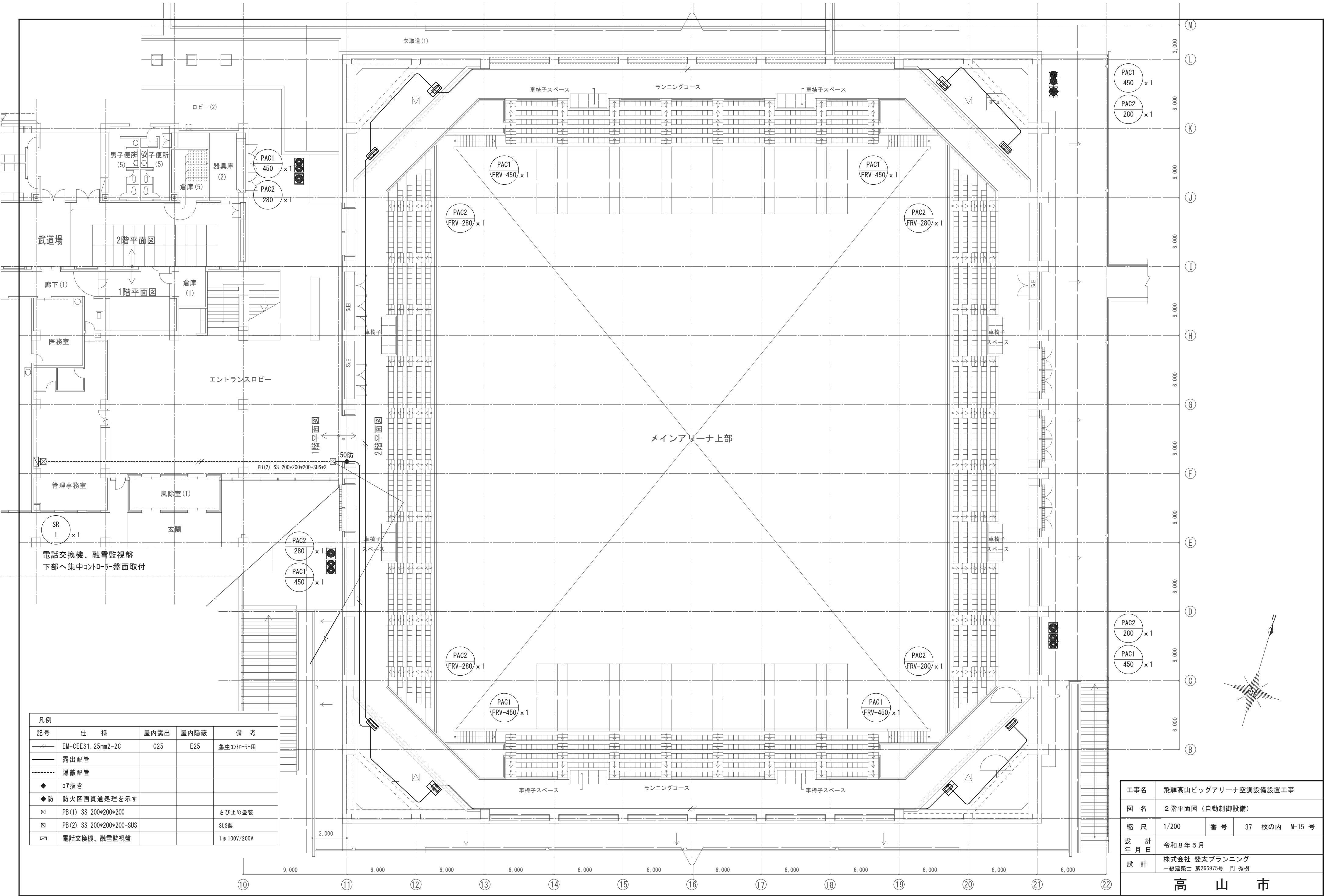
凡例	
—R—	冷媒配管（ガス20mm、液10mm）保温
—D—	ドレン配管（結露防止層付）
◆	コア抜き
◆防	防火区画貫通処理を示す

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	2 階平面図（空調設備）		
縮 尺	1/200	番 号	37 枚の内 M-13 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



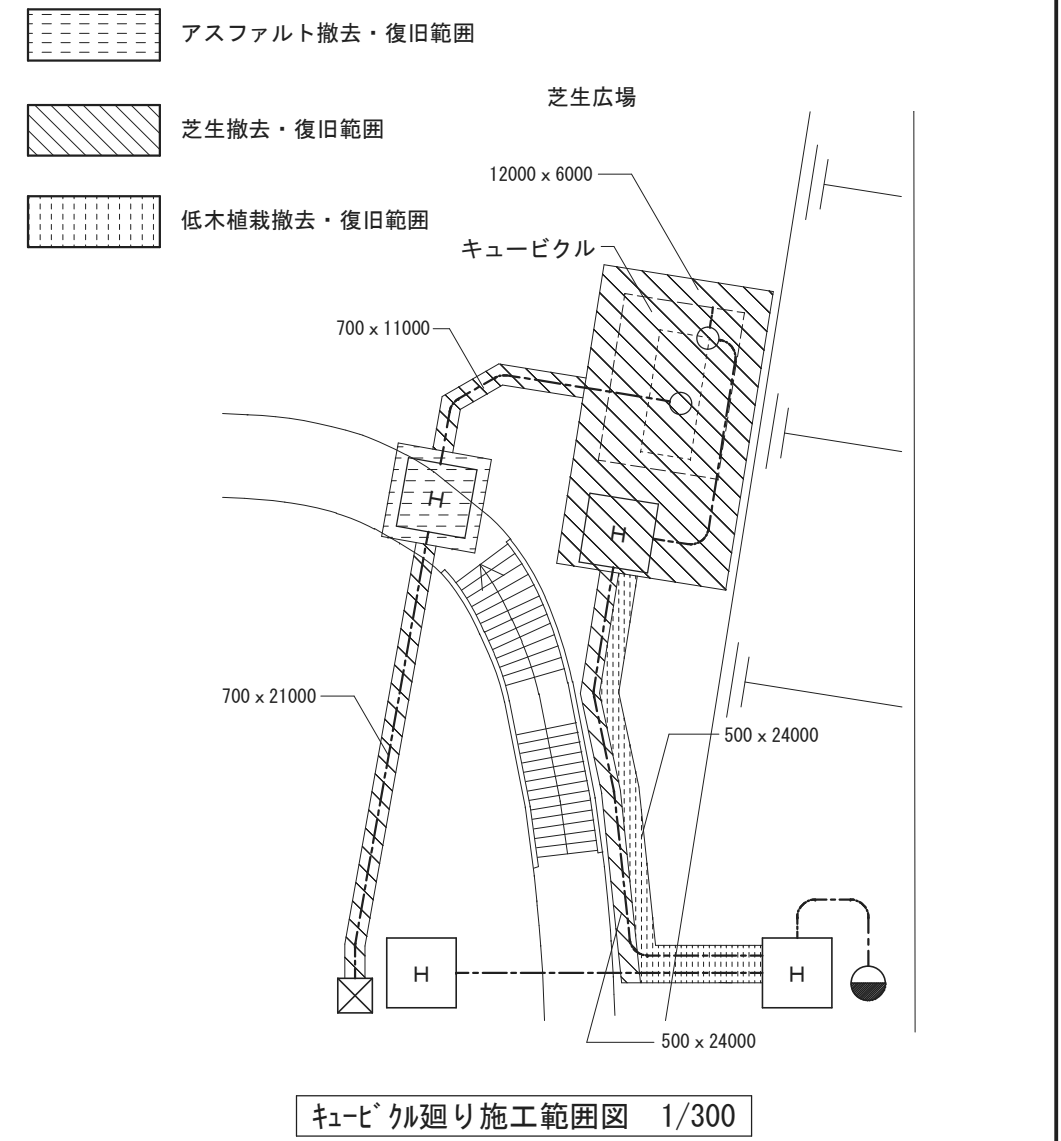
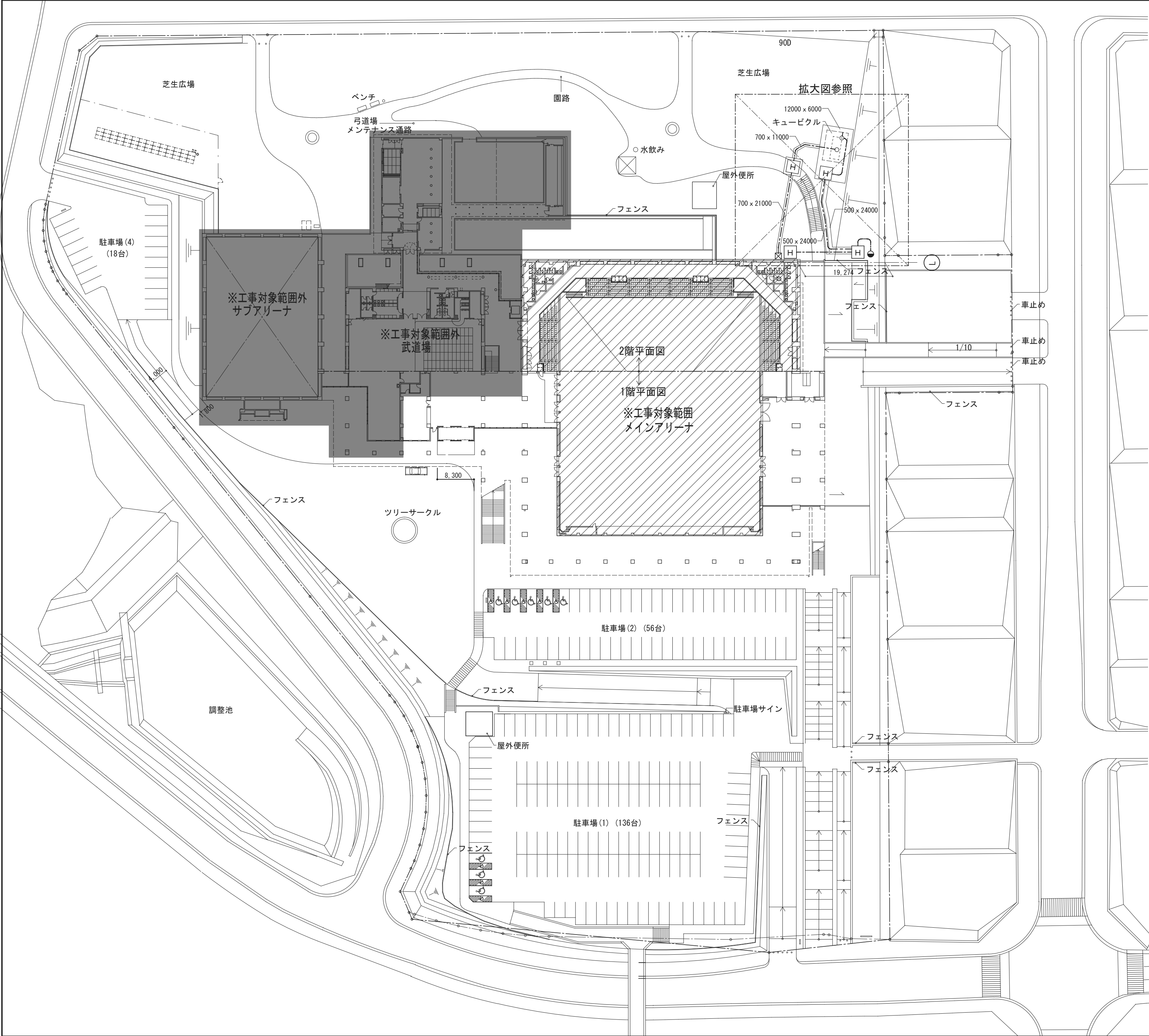
凡例				
記号	仕 様	屋内露出	屋内隠蔽	備 考
——	EM-CEES1.25mm2-2C	C25	E25	集中コントロー用
——	露出配管			
-----	隠蔽配管			
◆	コ7抜き			
◆防	防火区画貫通処理を示す			
☒	PB(1) SS 200*200*200			さび止め塗装
☒	PB(2) SS 200*200*200-SUS			SUS製
☒	電話交換機、融雪監視盤			1φ100V/200V

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	2階全体平面図（自動制御設備）		
縮 尺	1/300	番 号	37 枚の内 M-14 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

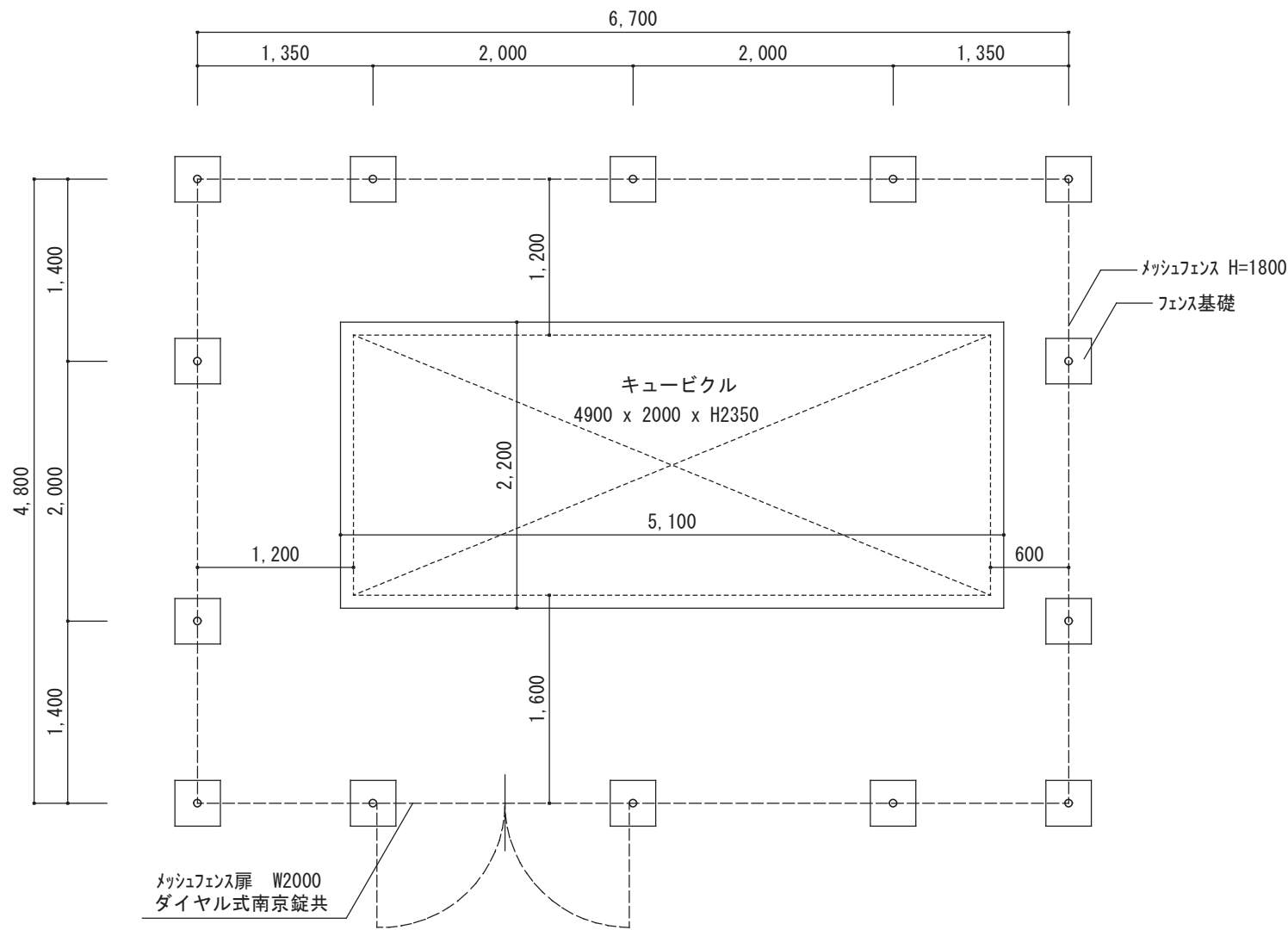


凡例				
記号	仕様	屋内露出	屋内隠蔽	備考
	EM-CES1. 25mm2-2C	C25	E25	集中コントローラー用
	露出配管			
	隠蔽配管			
	17抜き			
	防火区画貫通処理を示す			
	PB(1) SS 200*200*200			さび止め塗装
	PB(2) SS 200*200*200-SUS			SUS製
	電話交換機、融雪監視盤			1φ100V/200V

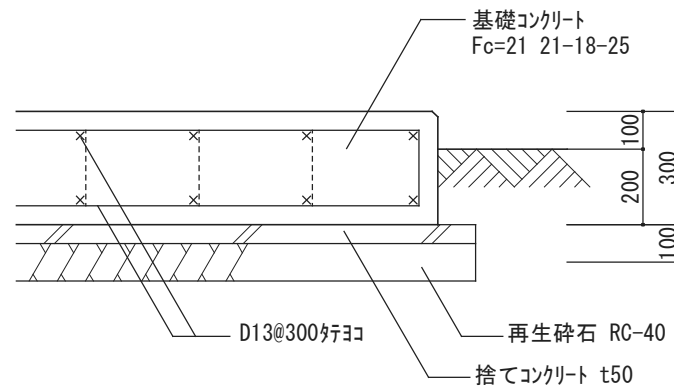
工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	2 階平面図（自動制御設備）		
縮 尺	1/200	番 号	37 枚の内 M-15 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



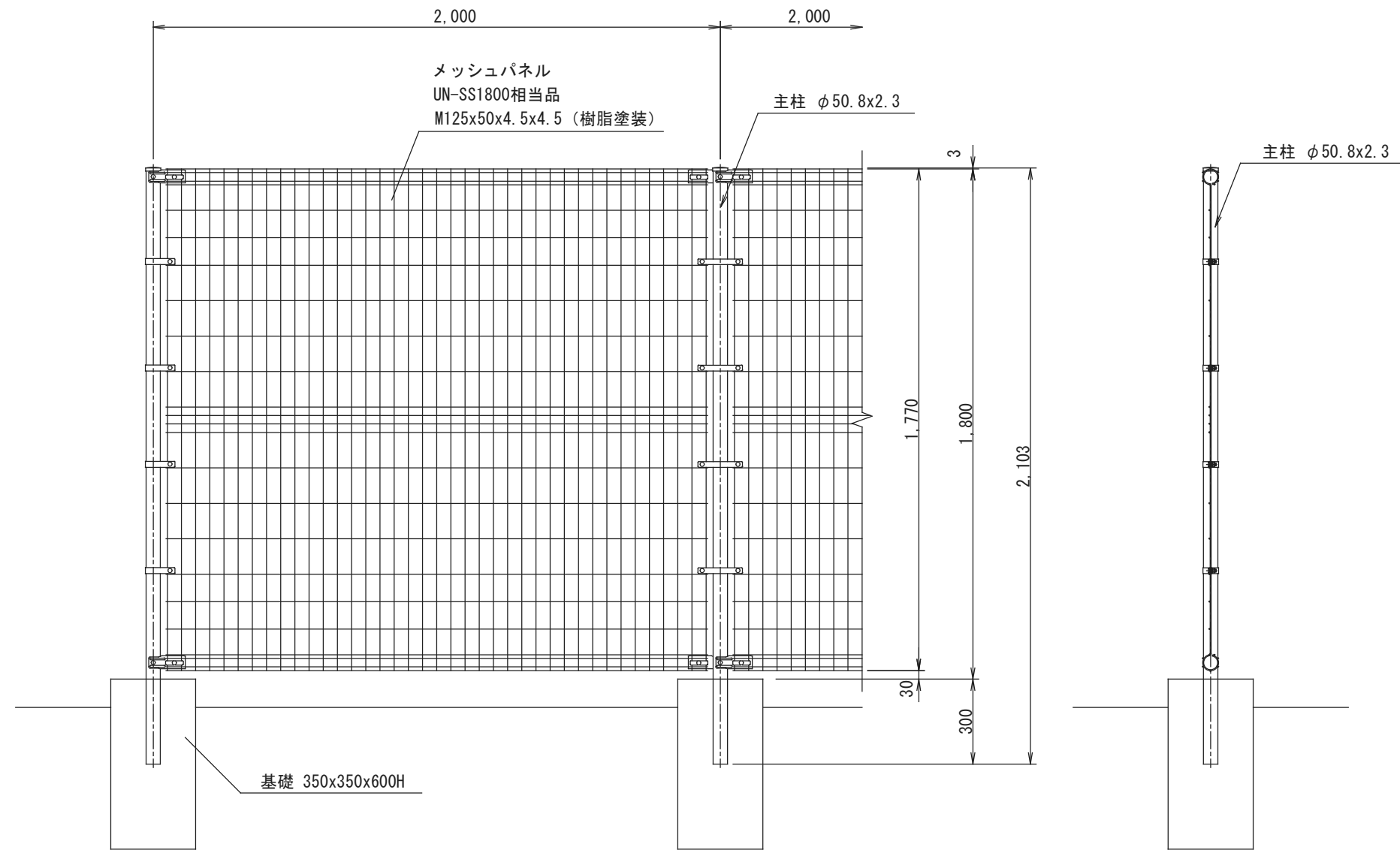
工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	外構配置図		
縮 尺	1/600・1/300	番 号	37 枚の内 M-16 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



平面図 S=1/50



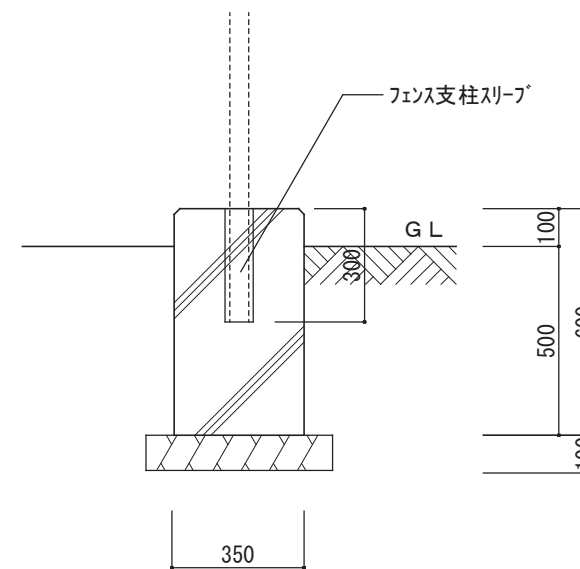
断面図 S=1/20



正面図 S=1/20

※耐雪型仕様とする

側面図 S=1/20



断面図 S=1/20

※耐雪型仕様とする

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	外構詳細図		
縮 尺	1/20, 1/50	番 号	37 枚の内 M-17 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



# 電気設備工事特記仕様書

- 1 一般仕様
- 1 新設工事共通仕様書（A. 7 工事種目において新設・増設一式とあるもの）
- （1）特記仕様、図面及び現場説明書（現場説明に対する質問回答書を含む）に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和7年版）及び公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和7年版）による。
- （2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事の仕様書を適用する。
- 2 改修工事共通仕様書（A. 7 工事種目において改修・撤去一式とあるもの）
- （1）特記仕様、図面及び現場説明書（現場説明に対する質問回答書を含む）に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和7年版）及び公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和7年版）による。
- （2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事の仕様書を適用する。
- 3 設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次の（1）～（5）の順番とおりとする。
- （1）質問回答書
- （2）現場説明書
- （3）特記仕様
- （4）図面
- （5）標準仕様書及び標準図
- 2 特記仕様
- 1 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
- 2 特記事項のうち選択する事項は、◎印の付いたものを適用する。
- 3 南海トラフ地震防災対策推進地域における工事にあっては、南海トラフ地震臨時情報が気象庁から出された場合には、工事中断の措置をとるものとし、これに伴う必要な補強・落下防止等の保全処置を講じなければならない。
- 上記事実が発生した場合は、契約書第27条（臨機の措置）の規定による。

章	項 目	特 記 事 項
1. 一 般 共 通 事 項	① 提出書類	本工事の施工に関して提出する書類は、高山市ホームページ上に示された書類とし、監督員協議によりその一部を省略することができる。
	② 下請契約	本工事において、下請契約を締結する場合には、「高山市公契約条例」（平成30年4月1日施行）に基づき当該契約の相手方を高山市内に本店（建設業法（昭和24年法律第100号）に規定する主たる営業所含む）を有する者の中から選定するよう努めること。
	③ 工事実績情報の登録（コリンズ）	工事請負金額500万円以上（消費税込み）の工事について、工事実績情報を登録するものとする。（登録先：（財）日本建設情報総合センター）
	④ 概成工期	総合試運転を行う上で、関連工事を含めた各工事が工期のおおむね10日前までに支障のない状況まで完了していること。
	⑤ 電気保安技術者	● 配置する。 ● 配置しない。
	⑥ 機材等	1）本工事に使用する設備機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。ただし、仮設工事材料、リサイクル製品及び特に指定したものは新品でなくともよい。また、これらの設備機材等は、監督員の承諾を受ける。 2）主要材料については、契約後、速やかに主要機材の製作所名等一覧表を提出し、監督員の確認を受ける。 3）設計図書に記載してあるもの及び監督員の指示する材料、仕上げる程度、色合い等は、あらかじめ見本を提出して確認を受ける。
	⑦ 機材の品質・性能証明	使用する機材が、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。
	⑧ 機器姿図	姿図の形状及び寸法は、概略を示す。
	⑨ 産業廃棄物の適正処理について	産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、監督員の指示に従い、産業廃棄物関連書類の提出及び確認並びに処理施設の現地確認並びに建設廃棄物処理状況の管理を行い、産業廃棄物が最終処分に至るまで適正に処理されていることを確認する。 廃棄物マニフェスト管理票の写しを提出すること。
	⑩ 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書の提出	建設リサイクル法の実施に係る岐阜県指針に基づき、工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を、また、工事完了時に同計画書の実施報告書を監督職員に提出するものとする。 （コブリス・プラス）
	⑪ 騒音・振動の防止	本工事においては、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」（平成9年7月31日建設省告示第1536号、最終改正平成13年4月9日国土交通省告示第487号）に基づき指定された低騒音型・低振動型建設機械を使用する。ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。
	⑫ 排出ガス対策	本工事においては、「排出ガス対策型建設機械指定要領」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用する。ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。
	⑬ 電気工事士	● 最大電力500kW以上の場合、第一種電気工事士により施工を行う。 ● 最大電力500kW未満の場合、第一種電気工事士又は認定電気工事従事者により施工を行う。
	⑭ 工事写真 ・竣工写真	本工事においては、「営繕工事写真撮影要領（令和5年改訂）」及び「デジタル工事写真の小黑板情報電子化について」による他、監督員の指示により撮影し提出する。

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	電気設備工事特記仕様書ー1		
縮 尺	ー	番 号	37 枚の内 E-01 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

1. 一般共通事項

⑮

監督職員事務所

Ⓐ

設けない

Ⓑ

設ける（号）

Ⓒ

既設建物を使用

⑯

工事用電力・水その他

⑰

工事用仮設物

⑱

足場・棧橋類

⑲

施工計画書

⑳

施工図等

㉑

完成図等

㉒

営繕工事電子納品

㉓

火災保険等

㉔

重点監督対象工事

㉕

軽微な変更等

㉖

残土処分

27

他工事との工事区分

㉘

合成樹脂管配線

29

薄鋼電線管

㉚

電線本数・管路等

㉛

金属製電線管の塗装

㉜

保護管

㉝

最上階の埋込配管

㉞

呼び線

㉟

プレート の材質

㊱

位置ボックス等

㊲

EM－EEFケーブルの仕様について

㊳

地中配線の埋設深さ等

㊴

地中線の埋設標

㊵

ハンドホルルの鉄蓋

㊶

電力・電話等の引き込み

Ⓐ

設けない

Ⓑ

設ける（号）

Ⓒ

既設建物を使用

本工事に必要な工事用電力・水等及び諸手続きなどに要する費用はすべて受注者の負担とする。

すべて受注者の負担とする。

ただし、設置条件は、構内につくことが（Ⓐ）できる（Ⓑ）できない（Ⓒ）。

足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の（2）手すり据置方式又はは（3）手すり先行専用足場方式により行う。

総合施工計画書

工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を工事の着手に先立ち作成し、監督員に提出する。

特定元方事業者を含めた安全管理計画を立案すること。

工種別施工計画書

該当する工種別に作成し、監督員に提出する。

施工図等の著作権にかかる使用权は、発注者に移譲するものとする。

工事着手に先立ち、詳細施工図を作成し監督員の承諾を受けた後、施工するものとする。

完成図等は、標準仕様書第1編第1章第7節「完成図等」により作成する。

完成図をC A Dにより作成する場合の保存形式及び保存媒体は、監督員の指示による。

Ⓐ 既存完成図（C A D データ）修正

営繕工事電子納品要領による。

工事施工中、火災保険または、それに代わる請負賠償責任保険等に参加し、証書の写しを書面の写しを工事着手後14日以内に提出する。加入期間は工事着手より、完成引渡しまでの期間を満足すること。（完了日後15日）

当該工事が高山市重点監督対象工事となった場合は、その扱いによるものとする。

現場の納まり、取合いなどの関係による協議の中で、設計図書によることが困難又は、不都合な場合の軽微な変更は、監督員の指示による。この場合、請負金額の変更は行わない。

※構外搬出適切処理（再資源化処理施設へ搬入する）・構内指示の場所に敷きならし  
・構内指示の場所に堆積・構外指示の場所に処分

※当該工事により発生する建設発生土は、次の公の関与する埋立地に搬出するものとする。  
搬出場所 関係法令等に従い、適切に処理する公の関与する埋立地に搬出するものとする。  
搬出先は、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、計量伝票等を報告書にまとめ監督員に提出する。

Ⓐ 残土処分地：高山市内 許認可を受けた残土処分地

図面に特記なき場合、別表「C. 工事区分表」による。ただし、これにより難しい場合は監督員と協議する。

合成樹脂製可とう管（P F 管）及び付属品は、タイプ-25のものを使用する。なお、電力用位置ボックス類は原則として合成樹脂製とするが、コンクリート打込み部分は金属製としても良い。ただし、金属製とする場合は当該ボックスには接地を施すものとする。また、ボックス類を外部に面した壁に打込む場合はボックスに保温・結露対策の処置を施すこと。

薄鋼電線管は表示されているものと同一外形のねじなし電線管を使用しても良い。

分電盤、制御盤、端子盤などの二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督員の承諾を受けて変更しても差し支えない。また、機械室等の床配線は図面上P F 管で記載している場合であっても、立上げ部分等の露出配管部分は金属管とし、その場合は全長にわたって接地線を設ける。

次の露出配管は塗装を行う。  
Ⓐ 屋 外（ ） Ⓐ 屋 内（ ）

ケーブル配線の保護管は、標準仕様書の金属管配線、合成樹脂管配線の項による。

最上階の天井スラブへの埋込配管は、原則として避けるものとする。

長さ1m以上の入線しない電線管には、電線太さ1.2mm以上のビニル被覆鉄線を挿入する。

フラッシュプレートは、図面に特記なき場合は次による。  
Ⓐ 金属製（ステンレス・新金属製を含む） Ⓑ 樹脂製

ケーブルころがし配線で送り配線端子のある場合は、照明器具、スピーカー、感知器の位置ボックスは、不要とする。

3心以上のEM－EEFケーブルについて、1心を接地線として使用する場合は当該心線絶縁体の識別色が緑色である材料を使用すること。

地中配線で、特記なき埋設深さは0.6m以上とする。なお、地中配線には標識シート等（2倍長以上重ね）を設ける。

構内線路における埋設標の材質及びその個数は、図面に記載のない場合は、次による。  
Ⓑ 鉄製（箇所） Ⓐ コンクリート製（4箇所）

ハンドホール等の鉄蓋は、鋳型流し込みで用途名を表示する。  
Ⓐ 構内配電線路の用途名（Ⓐ 電力 Ⓐ 高圧 ） Ⓑ 構内通信線路の用途名（ Ⓑ 通信 Ⓑ ）  
Ⓑ 共用する場合の用途名（ Ⓑ 電気 Ⓑ ）

電力及び電話等引き込み線の引留方法、位置については電力会社及び電気通信事業者等と打合せのうえ監督員と協議により施工する。

1. 一般共通事項

㉒

接地極

㉓

機器取付高さ

接地の種類

記号

接地抵抗値

接地極の規格・数量

Ⓑ 共同接地

E<sub>A・B・C・D</sub>

Ω以下

E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組

Ⓐ 共同接地

E<sub>A・C・D</sub>

10Ω以下

E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組

Ⓑ A 種

E<sub>A</sub>

10Ω以下

E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組

Ⓐ B 種

E<sub>B</sub>

Ω以下

E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組

Ⓑ C 種

E<sub>C</sub>

10Ω以下

E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組

Ⓑ D 種

E<sub>D</sub>

Ω以下

E B（D=10、L=1,000 または W=30、L=900）×1

Ⓐ 漏電遮断器回路用

E<sub>L C B</sub>

100Ω以下

E B（D=10、L=1,000 または W=30、L=900）×1

Ⓑ 高圧避雷器

E<sub>L H</sub>

10Ω以下

E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組

Ⓑ 交換装置用

E<sub>t</sub>

10Ω以下

E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組

Ⓑ 通信用

E<sub>A t</sub>

10Ω以下

E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組

Ⓑ 通信用

E<sub>D t</sub>

100Ω以下

E B（D=10、L=1,000 または W=30、L=900）×1

Ⓑ 電話引込口の保安器用

E<sub>D t</sub>

100Ω以下

E B（D=10、L=1,000 または W=30、L=900）×1

Ⓐ 測定用

E<sub>D</sub>

100Ω以下

E B（D=10、L=1,500 または W=30、L=1,200）×3連－1組

Ⓑ 構造体接地

Ω以下

Ⓑ 等電位接地

Ω以下

図面に特記なき場合は、次表の「接地極一覧表」による。

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極の規格・数量
Ⓑ 共同接地	E <sub>A・B・C・D</sub>	Ω以下	E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組
Ⓐ 共同接地	E <sub>A・C・D</sub>	10Ω以下	E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組
Ⓑ A 種	E <sub>A</sub>	10Ω以下	E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組
Ⓐ B 種	E <sub>B</sub>	Ω以下	E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組
Ⓑ C 種	E <sub>C</sub>	10Ω以下	E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組
Ⓑ D 種	E <sub>D</sub>	Ω以下	E B（D=10、L=1,000 または W=30、L=900）×1
Ⓐ 漏電遮断器回路用	E <sub>L C B</sub>	100Ω以下	E B（D=10、L=1,000 または W=30、L=900）×1
Ⓑ 高圧避雷器	E <sub>L H</sub>	10Ω以下	E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組
Ⓑ 交換装置用	E <sub>t</sub>	10Ω以下	E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組
Ⓑ 通信用	E <sub>A t</sub>	10Ω以下	E B（D=14、L=1,500 または W=40、L=1,200）×3連－2組
Ⓑ 通信用	E <sub>D t</sub>	100Ω以下	E B（D=10、L=1,000 または W=30、L=900）×1
Ⓑ 電話引込口の保安器用	E <sub>D t</sub>	100Ω以下	E B（D=10、L=1,000 または W=30、L=900）×1
Ⓐ 測定用	E <sub>D</sub>	100Ω以下	E B（D=10、L=1,500 または W=30、L=1,200）×3連－1組
Ⓑ 構造体接地		Ω以下	
Ⓑ 等電位接地		Ω以下	

図面に特記なき場合は、次による。

名 称	測 点	取付高さ (mm)	名 称	測 点	取付高さ (mm)
積算計器	地 上～窓中心	1,800～2,000	情報表示盤	床 上～中 心	天井高×0.9
引込開閉器	地 上～中 心	1,800～2,200	壁付発信機	床 上～中 心	1,300
			ベル・ブザー・チャイム	床 上～中 心	2,300
分電盤	床 上～中 心	1,500 (上端1,900以下)	壁付押釦（一般）	床 上～中 心	1,300
スイッチ	床 上～中 心	1,300	壁付インターホン（一般）	床 上～中 心	1,300
スイッチ（自動扉）	床 上～中 心	1,800	〃（身体障害者）	床 上～中 心	1,100
スイッチ（人感センサ）	床 上～中 心	1,800	壁付アウトレット（一般）	床 上～中 心	300
（一般）	床 上～中 心	300	壁付アウトレット（和室）	床 上～中 心	150
（和室）	床 上～中 心	150	呼出釦（多目的便所）	床 上～中 心	900
（台上）	台 上～中 心	150～200	復帰釦	床 上～中 心	1,500～1,800
（土間）	床 上～中 心	500			
（外壁・屋外）	地 上～中 心	800	機器収容箱	天井下～上 端	200
（一般）	床 上～中 心	2,100～2,300	直列ユニット（一般）	床 上～中 心	300
（踊場）	床 上～中 心	2,000～2,500	直列ユニット（和室）	床 上～中 心	150
（鏡上）	鏡上端～中 心	150			
壁掛形制御盤	床 上～中 心	1,500 (上端1,900以下)	受信機・副受信機	床 上～中 心	800～1,500
手元開閉器	床 上～中 心	1,500	機器収容箱・発信機	床 上～中 心	800～1,500
制御スイッチ	床 上～中 心	1,300	警報ベル	床 上～中 心	2,300
室内端子盤	床 上～下 端	300	表示灯	床 上～中 心	2,100
集合保安器箱	天井下～上 端	200	ガス用検知器 (LPG)	床 上～上 端	300
壁付電話機	床 上～中 心	1,300			
（一般）	床 上～中 心	300			
（和室）	床 上～中 心	150			
	床 上～中 心				
壁掛形親時計	床 上～中 心	1,500 (上端1,900以下)			
子時計	床 上～中 心	天井高×0.9			
壁掛形スピーカ	床 上～中 心	天井高×0.9			
壁付アッテネータ	床 上～中 心	1,300			

工事名

飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事

図 名

電気設備工事特記仕様書－2

縮 尺

－

番 号

37 枚の内 E-02 号

設 計 年 月 日

令和8年5月

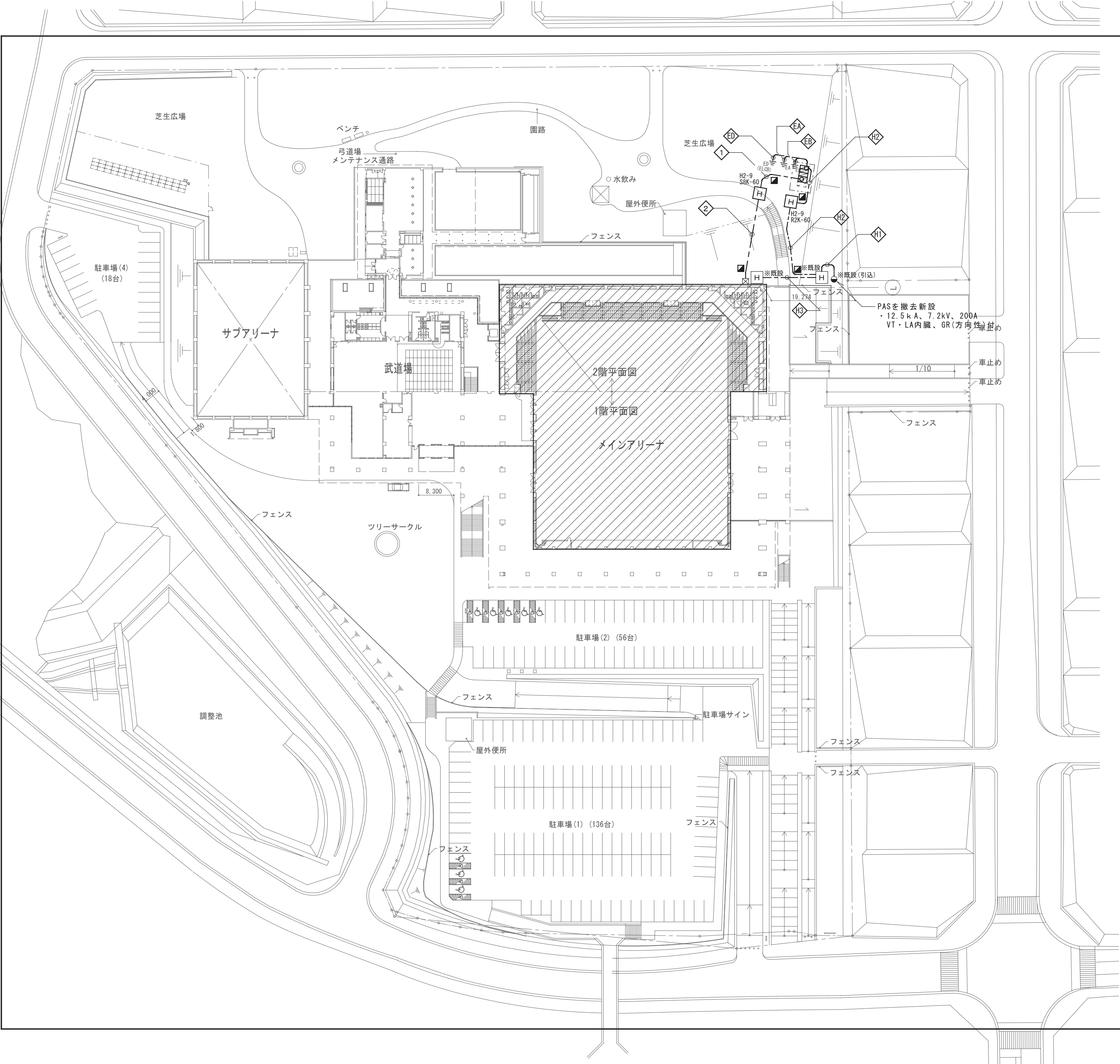
設 計

株式会社 斐太プランニング  
一級建築士 第266975号 門 秀樹

高 山 市

1. 一般共通事項	(44) 耐震措置	設備機器の固定は、施設の分類並びに機器の種別、重要度及び設置階に応じて、次の設計用水平地震力及び設計用鉛直地震力に対し、移動、点灯、破損等が生じないようにする。 1) 設計用水平地震力は機器重量に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用標準水平震度は次の表による。 ＜施設区分＞ <ul style="list-style-type: none"><li>特定の施設</li><li>一般の施設</li></ul> ＜重要機器＞ <ul style="list-style-type: none"><li>配電盤</li><li>発電装置(防災用)</li><li>交流無停電電源装置</li><li>直流電源装置</li><li>交換装置</li><li>中央監視制御装置</li><li>自動火災報知受信機</li><li>総合盤</li><li>放送架</li><li></li><li></li><li></li></ul> ＜上層階の定義＞2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階 ＜中層階の定義＞地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの	2. 電力・受変電・発電	8 インバータ装置の規約効率	三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。 <table><tr><td>電動機出力(kW)</td><td>0.4</td><td>0.75</td><td>1.5</td><td>2.2</td><td>3.7</td><td>5.5</td><td>7.5</td><td>11</td><td>15</td><td>18.5</td><td>22</td><td>30</td><td>37</td><td>45</td></tr><tr><td>規約効率(%)</td><td>86.0</td><td>88.5</td><td>92.0</td><td>93.0</td><td>94.0</td><td>94.0</td><td>94.5</td><td>94.5</td><td>95.0</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td></tr></table>	電動機出力(kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45	規約効率(%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	5. 追記事項	① 建設機械	1) 本工事においては、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年7月31日建設省告示第1536号、最終改正 平成16年9月24日国土交通省告示第1151号)に基づき指定された建設機械を使用する。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議の上、必要書類を提出するものとする。 2) 本工事においては、「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日建設省経機発第249号、最終改正 平成14年4月1日国総施第225号)」に基づき指定された建設機械を使用する。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年建設技術評価制公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」又はこれと同等の開発目的で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策機械と同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。 排出ガス対策建設機械、又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。
	電動機出力(kW)	0.4		0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45																						
	規約効率(%)	86.0		88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5																						
	② 下請契約	本工事において、下請契約を締結する場合には、「高山市公契約条例」(平成30年4月1日施行)に基づき、当該契約の相手方を高山市内に本店(建設業法(昭和24年法律第100号)に規定する主たる営業所含む。))を有する者の中から選定するよう努めること。 下請け業者の選定に当たっては高山市入札参加資格停止の処置がされていないこと。																																				
③ 事故報告	工事施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督員に通報するとともに、事故発生報告書を監督員に提出する。																																					
④ 重点監督対象工事	当該工事が高山市重点監督対象工事となった場合は、その取扱いによるものとする。																																					
45 天井仕上区分	(46) 安全施設の使用・設置	1) 安全施設の使用・設置は関係法令等を順守するほか次のとおり講じなければならない。 (1) 原則、昇降用梯子で作業しないこと。ただし、やむを得ず作業する場合は、作業する高さに関わらず安全带を使用しなければならない。 (2) 墜落制止用具は一連の作業において親綱の架け替え等が生じる場合は、本作業用、補助用の2丁掛としなければならない。	3. 通信・情報	1 ケーブル	EM-CPEEケーブルは、EM-FCPEEを使用しても良い。 EM-UTPケーブルは、使用用途が判別できるようシース色等を変えること。 <table><tr><td>1W (</td><td>L級</td><td>M級</td><td>S級)</td></tr><tr><td>3W (</td><td>L級</td><td>M級</td><td>S級)</td></tr></table> 最上階フロアのコンクリート打設前に、受信電波の電界強度測定を1ヶ所以上行うこと。 また、その報告書を監督員まで提出すること。	1W (	L級	M級	S級)	3W (	L級	M級	S級)	⑤ 経年検査	建築竣工引渡後1年が経過した時点において係員立合のもとで1年検査を行い、工事不良の為生じたと認められる損害等についても、係員の指示に従い改修しなければならない。 なお、その費用については請負者の負担とする。																							
	1W (	L級		M級	S級)																																	
	3W (	L級		M級	S級)																																	
	⑥ 損害保険	工事中出来高部分と工事現場に搬入した工事材料・建築設備の機器などに火災保険または建設工事保険を付し、その証券の写しを監督職員に提出する。 1) 損害の補填条件 a. 火災、落雷、爆発又は破裂 b. 台風、旋風、暴風、暴風雨の風災 2) 保険金 原則として請負金額とする。 3) 保険の期間 保険の加入の時期は、原則として工事着工のときとし、終期は工事完成後14日までとする。 4) 協議 この取扱いにより難い事項については、必要に応じて請負者は、監督職員と協議するものとする。																																				
⑦ 実施状況の提出について	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目について、事前に計画書を提出し監督職員の確認を得た上で実施し、実施後に実施報告を提出することができる。																																					
46 安全施設の使用・設置	(47) 定期安全訓練・研修等	1) 受注者は、工事着手後、作業員全員の参加により月当たり、半日以上時間を割り当て、次の各号から期的に実施する内容を選択し、定安全に関する研修・訓練等を実施しなければならない。 さらに、工事内容や現場状況に応じて、過去の事故事例集(下記URL参照)の活用により、工事現場で想定される事故防止対策を必ず実施すること。 (1) 安全活動のビデオ等視聴覚資料による安全教育 (2) 当該工事内容等の周知徹底 (3) 工事安全に関する法令、通達、指針等の周知徹底 (4) 当該工事における災害対策訓練 (5) その他、安全・訓練等として必要な事項	4. 改修一般事項	2 仮設備	仮設備項目( <ul style="list-style-type: none"><li>受変電</li><li>発電</li></ul> ) 仮設備期間( <ul style="list-style-type: none"><li>図示</li><li>ヶ月</li></ul> )	⑧ 工事着手前協議について	1) 本工事の受注者は、契約後1～2週間以内に設計書内容等について、監督員と工事着手前協議を行うこと。 2) 協議に当たっては、別に定める「施工打ち合わせ記録簿」に協議事項を記入し、打ち合わせに持参すること。なお、協議日の設定については、受注者側が事前に監督員と連絡をとり設定しておくこと。 3) 協議に当たって、発注者側は監督員及び担当係長又は課長、受注者側は現場代理人及び主任技術者が出席するものとする。 4) 協議時、「施工打ち合わせ記録簿」の回答(その他)欄は監督員が記入し、最後に確認を行い監督員・担当係長又は課長の確認印を押印し、写しを現場代理人(主任技術者)が受け取ること。																															
	⑧ 電子メールの利用	本工事の施工中における受発注者間の情報共有は、電子メールを利用すること。運用にあたっては、「電子メールを活用した情報共有における運用指針」による他、工事着手前協議時に監督員と協議の上、決定するものとする。																																				
	⑩ ディーゼルエンジン車両の適正燃料の使用について	1) ディーゼルエンジンを動力とする車両には、JIS規格の軽油を使用すること。 2) ディーゼルエンジンを動力とする車両の燃料検査があった場合には協力すること。																																				
	⑪ 工事書類の簡素化	1) 実施にあたっては「工事書類簡素化要領」(技191号平成22年6月30日改正)に基づいて実施すること。																																				
47 そ の 他	(48) 安全施設の使用・設置	1) 安全施設の使用・設置は関係法令等を順守するほか次のとおり講じなければならない。 (1) 原則、昇降用梯子で作業しないこと。ただし、やむを得ず作業する場合は、作業する高さに関わらず安全带を使用しなければならない。 (2) 墜落制止用具は一連の作業において親綱の架け替え等が生じる場合は、本作業用、補助用の2丁掛としなければならない。	5. 電力・受変電・発電	⑤ は つ り	既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。	⑫ 施工中の安全確保	1) 「建築基準法」「労働安全衛生法」その他関係法令等に定めるところによるほか、「建設工事公衆災害防止対策要綱建築工事編」に従うとともに「建築工事安全施工技術基準指針」を参考に施工に伴う災害及び事故の防止に努める。 2) 安全委員会の組織を構成するとともに、「日常活動(安全朝礼・ミーティング・KY活動 工事打合せ等)」及び「月例行事(安全パトロール・安全協議会・安全大会等)」の実施と記録を行う。																															
	⑥ 分電盤等	本工事の分電盤、OA盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器の寸法と定格は、JIS C 8201-2-1: 付属書JC(参考)「電灯分電盤用協約形回路遮断器」によるものとし、特記なき場合、JIS協約形の1Pサイズ(100V2P1E、200V2P2E)とする。 また、漏電遮断器の寸法と定格は、JIS C 8201-2-2: 付属書JC(参考)「電灯分電盤協約形回路遮断器」によるものとし、特記なき場合、JIS協約形の1Pサイズ(100V2P2E)とする。																																				
	7 OA盤・端子盤	OA盤の端子盤部及び端子盤には、換気口を設けるものとする。																																				

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	電気設備工事特記仕様書ー3		
縮 尺	—	番 号	37 枚の内 E-03 号
設 計 年 月 日	令和8年5月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



H1 6kV CVT 38" (H182) 地中 3Φ3W 高压引込 ※配線のみ撤去  
CV 8"-2C (H128) DGR電源 ※配線のみ撤去  
※高压ケーブルを撤去新設。  
6kV EM-CET 38" (既設管内) 地中 3Φ3W 高压引込

H2 6kV EM-CET 38" (FEP80) 地中 3Φ3W 高压引込  
6kV EM-CET 38" (FEP80) 地中 3Φ3W 高压送り (ケーブルへ)

H3 6kV CVT 38" (H182) 地中 3Φ3W 高压引込 ※配線のみ撤去  
CV 8"-2C (H128) DGR電源 ※配線のみ撤去  
※高压ケーブルを撤去新設。  
6kV EM-CET 38" (既設管内) 地中 3Φ3W 高压引込

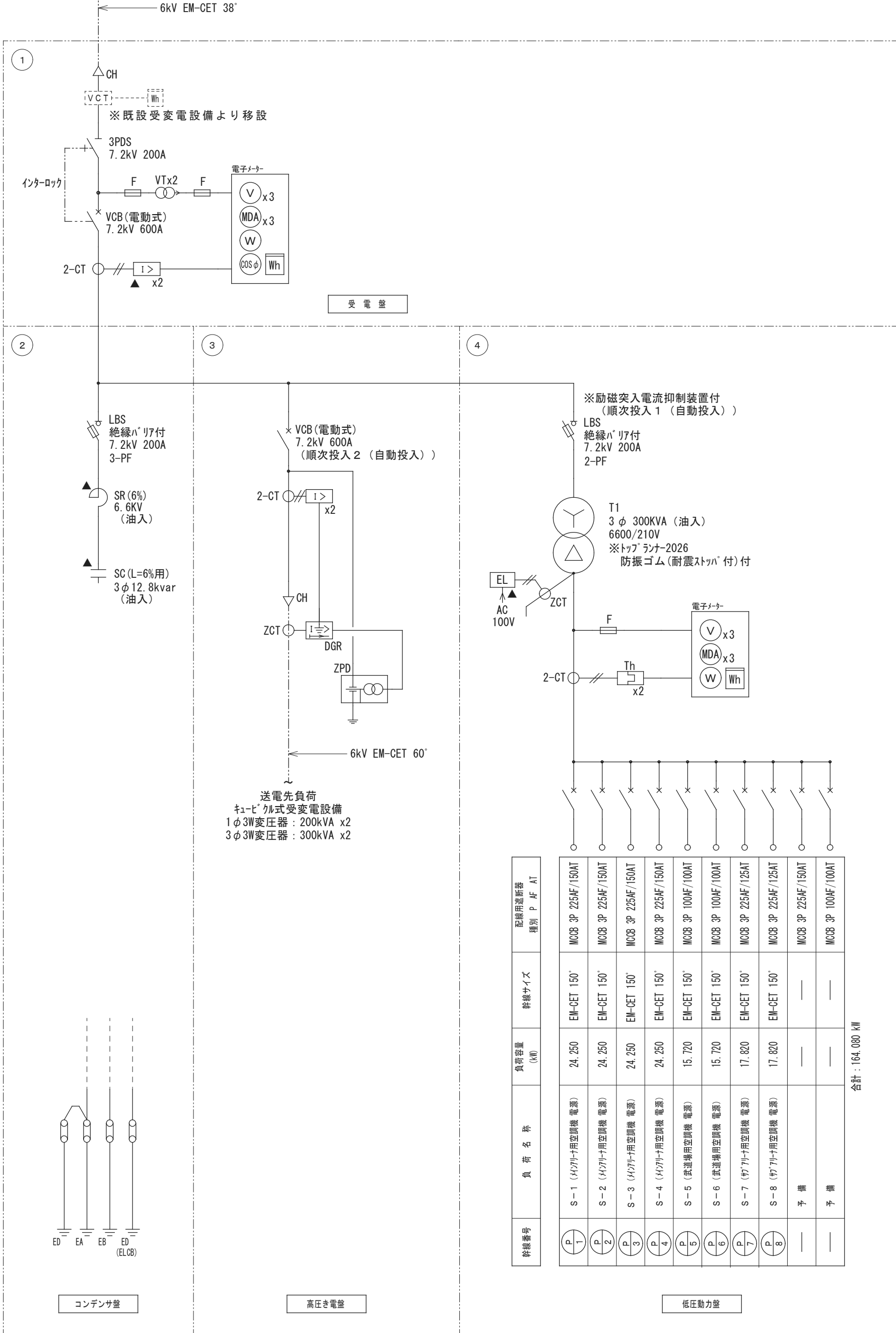
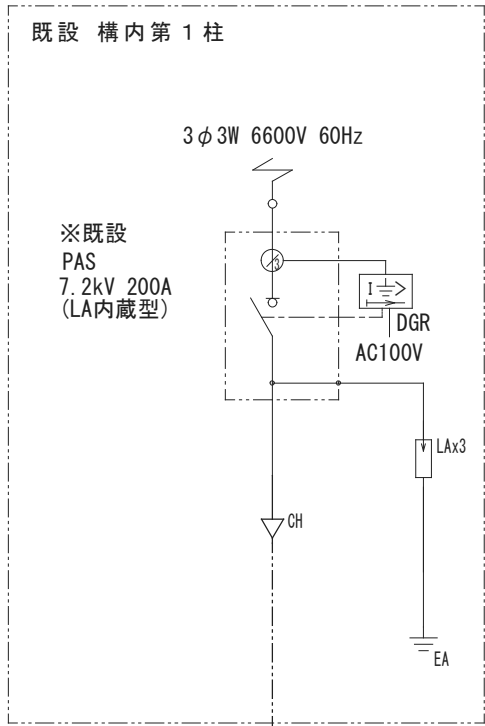
EA EM-IE 60" (H122) EA(ED共用) ※新設  
EB EM-IE 60" (H122) EB ※新設  
ED EM-IE 38" (H122) ED(ELCB) ※新設

1 EM-CET 38", E22" (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-1  
EM-CET 100", E22" (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-2  
EM-CET 100" (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-3  
EM-CET 100" (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-4  
○ (FEP80) 地中 3Φ3W 幹線: S-5  
○ (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-6  
○ (FEP80) 地中 3Φ3W 幹線: S-7  
○ (FEP80) 地中 3Φ3W 幹線: S-8  
○ (FEP80) 地中 予備  
○ (FEP80) 地中 予備  
EM-CEE 2"-6C (FEP50) 新設ケーブル警報

2 EM-CET 38", E22" (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-1  
EM-CET 100", E22" (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-2  
EM-CET 100" (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-3  
EM-CET 100" (FEP65) 地中 3Φ3W 幹線: S-4  
○ (FEP80) 地中 予備  
EM-CEE 2"-6C (FEP50) 新設ケーブル警報

..... 本工事対象建物を示す

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	配置図（構内配電線路）		
縮 尺	1/600	番 号	37 枚の内 E-04 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

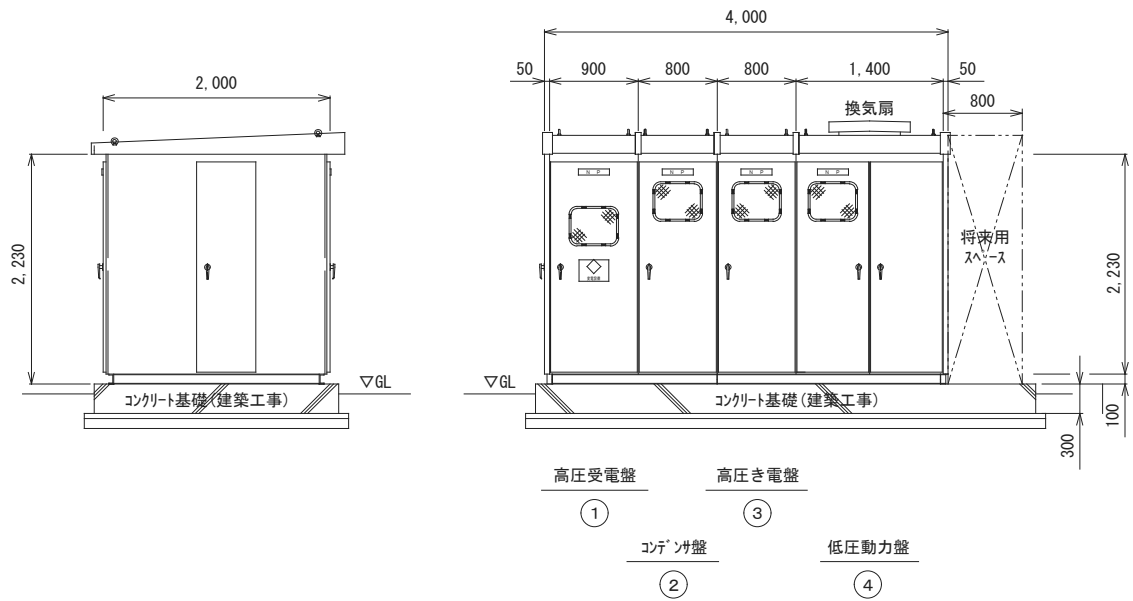


新設 屋外型キュービクル 単線結線図

故障表示項目

	配電盤		外部
	ランプ	ブザー	
漏電継電器	○		○ ※一括
過電流継電器	○		
熱動継電器	電圧変圧器用	○	
	動力変圧器用	○	
直列リアクトル	○		
高圧進相コンデンサ	○		
デマンド警報	○		○

- 注1. 屋外型(銅板製、指定色塗装)キュービクルとする。
2. ▲印は、外部警報接点付きとする。
3. 検針窓等のガラスは、透明網入りガラスとする。
4. 基礎及びフェンス等は、建築工事とする。
5. MCCBは、埋込型とする。(フラッシュレイトタイプ)
6. 換気設備を設けること。
7. チャンネルベースは溶融亜鉛めっき仕上げとする。
8. スペースヒーターを設置すること。
9. 本工事にて消火器(10型)1本(SUS製収納箱付)を設置する事。
10. 指定色塗装とする。



屋外型キュービクル 参考姿図

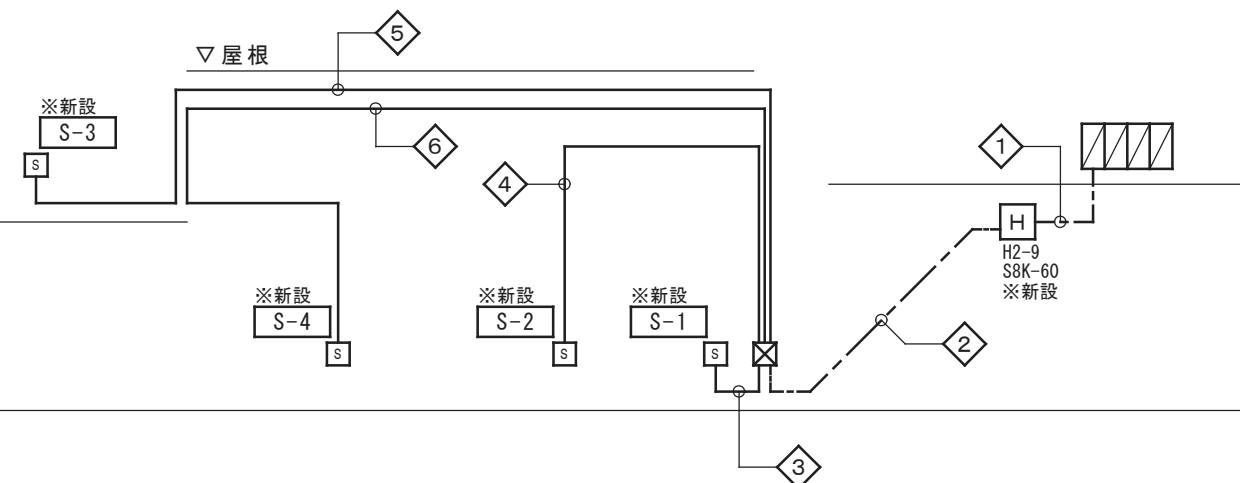
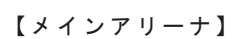
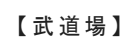
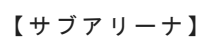
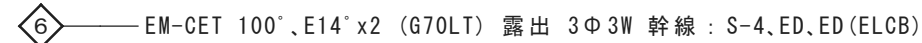
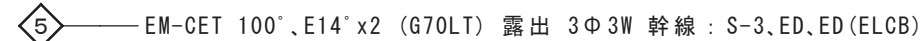
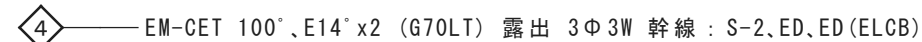
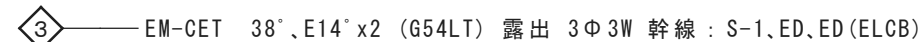
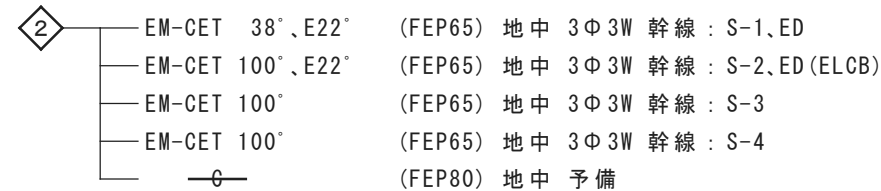
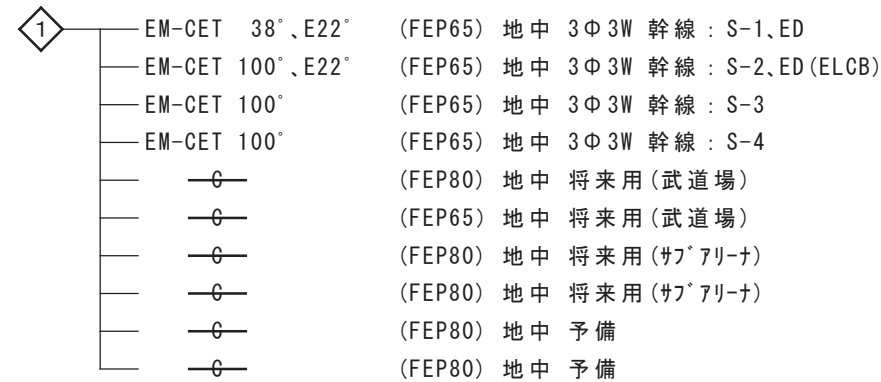
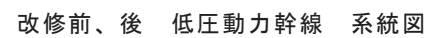
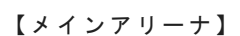
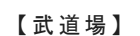
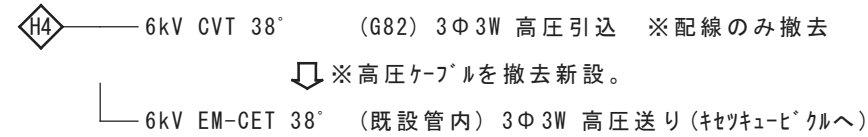
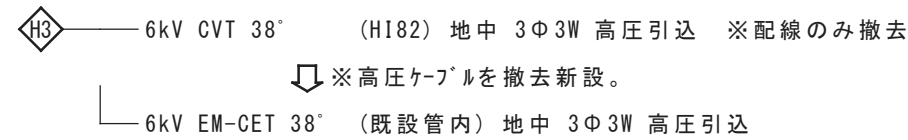
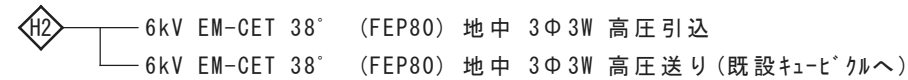
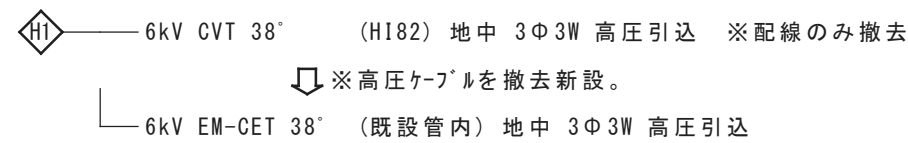
注、屋外型(銅板製、指定色塗装)キュービクルとする。  
寸法及び、形状等は参考とする

凡 例		
記 号	名 称	備 考
LBS	高圧負荷開閉器	
PC	高圧カットアウト	
TR	変圧器	油入
VT	計器用変圧器	
CT	変流器	
ZCT	零相変流器	
F	ヒューズ	
CH	ケーブルヘッド	
TB	端子台	
MCCB	配線用遮断器	
ELCB	漏電用遮断器	
EL	漏電継電器	
Th	熱動過電流継電器	
V	電圧計	
MDA	最大需要電流計	
MDW	最大需要電力計	警報接点付
VS	電圧計切換スイッチ	
AS	電流計切換スイッチ	
SC	高圧進相コンデンサ	

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	受変電設備単線結線図・姿図（参考図）		
縮 尺	－	番 号	12 枚の内 E-05 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



## 改修前、後 高圧幹線 系統図



工事名	飛驒高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	高圧、低圧動力 系統図		
縮 尺	－	番 号	37 枚の内 E-06 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 菱太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

S

新設 開閉器盤：S－1（S－2、S－3、S－4）

設置場所：屋外 屋外露出壁掛型、SUS製 鍵付

記 号：S-1S-2S-3S-4

3φ3W  
200V（負荷合計：24.250 kW）

MCCB 3P  
225AF/150AT

E

E

E

E

回路	電圧 (V)	容 量 (kW)	開 閉 器 容 量	負 荷 名 称
—	200	11.640	ELCB 3P 100AF/ 75AT	空調室外機（PAC-1）電源
—	200	6.710	ELCB 3P 50AF/ 50AT	空調室外機（PAC-2）電源
—	200	3.700	ELCB 3P 50AF/ 30AT	空調室内機（PAC-1）電源
—	200	2.200	ELCB 3P 50AF/ 15AT	空調室内機（PAC-2）電源

ED

ED (ELCB)

凡 例

記 号	名 称	仕 様	備 考	記 号	名 称	仕 様	備 考
S	手元開閉器盤	分電盤結線図参照					
AC	空調室内機	機械設備工事					
AC	空調室外機	機械設備工事					
	警報盤						
☒	ブルボックス	平面図注記を参照					
⏏ <sub>En</sub>	接地工事	EA、EB、ED、ED (ELCB)					
H	ハンドホール	構内配電線路図参照					
●	電 柱	コンクリート製、 構内配電線路図参照					
——	配管配線・ケーブル配線	天井内いんべい					
----	配管配線・ケーブル配線	露出					
---	配管配線・ケーブル配線	地中埋設					
↗↘↙	配管配線	立上げ 素通し 引下げ					

空調機 配線表

※配管配線とも本工事にて新設

＜ S-1：2次側 空調機器配線表 ＞					
記号	機 器 名 称	電源	負荷容量	配 線 配 管	備 考
PAC-1	空調 室外機	3Φ200V	11.640kW	EM-CET 22'、E5.5' (G42)	
PAC-2	〃	〃	6.710kW	EM-CET 14'、E5.5' (G36)	
PAC-1	空調 室内機	〃	3.700kW	EM-CE 3.5' -4C (G28)	
PAC-2	〃	〃	2.200kW	EM-CE 3.5' -4C (G28)	

※配管配線とも本工事にて新設

＜ S-3：2次側 空調機器配線表 ＞					
記号	機 器 名 称	電源	負荷容量	配 線 配 管	備 考
PAC-1	空調 室外機	3Φ200V	11.640kW	EM-CET 22'、E5.5' (G42)	
PAC-2	〃	〃	6.710kW	EM-CET 14'、E5.5' (G36)	
PAC-1	空調 室内機	〃	3.700kW	EM-CE 3.5' -4C (G28)	
PAC-2	〃	〃	2.200kW	EM-CE 3.5' -4C (G28)	

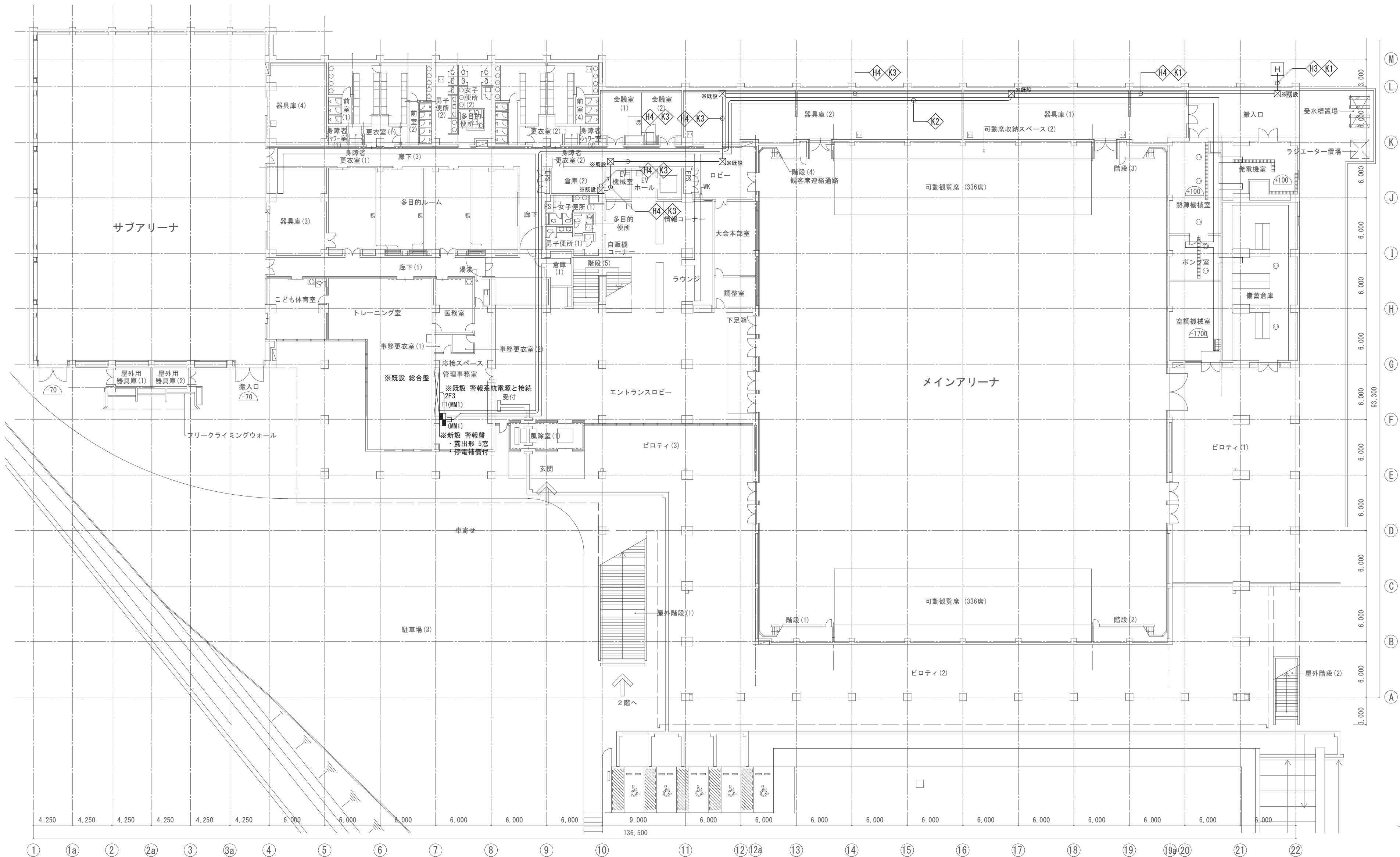
※配管配線とも本工事にて新設

＜ S-2：2次側 空調機器配線表 ＞					
記号	機 器 名 称	電源	負荷容量	配 線 配 管	備 考
PAC-1	空調 室外機	3Φ200V	11.640kW	EM-CET 22'、E5.5' (G42)	
PAC-2	〃	〃	6.710kW	EM-CET 14'、E5.5' (G36)	
PAC-1	空調 室内機	〃	3.700kW	EM-CE 3.5' -4C (G28)	
PAC-2	〃	〃	2.200kW	EM-CE 3.5' -4C (G28)	

※配管配線とも本工事にて新設

＜ S-4：2次側 空調機器配線表 ＞					
記号	機 器 名 称	電源	負荷容量	配 線 配 管	備 考
PAC-1	空調 室外機	3Φ200V	11.640kW	EM-CET 22'、E5.5' (G42)	
PAC-2	〃	〃	6.710kW	EM-CET 14'、E5.5' (G36)	
PAC-1	空調 室内機	〃	3.700kW	EM-CE 3.5' -4C (G28)	
PAC-2	〃	〃	2.200kW	EM-CE 3.5' -4C (G28)	

工事名		飛驒高山ビッグアリーナ空調設備設置工事	
図 名		分電盤結線図・凡例・配線表	
縮 尺	—	番 号	37 枚の内 E-07 号
設 計 年 月 日	令和8年5月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



H3 6kV CVT 38' (H182) 地中 3Φ3W 高圧引込 ※配線のみ撤去  
※高圧ケーブルを撤去新設。  
6kV EM-CET 38' (既設管内) 3Φ3W 高圧送り (キツキュービクルへ)

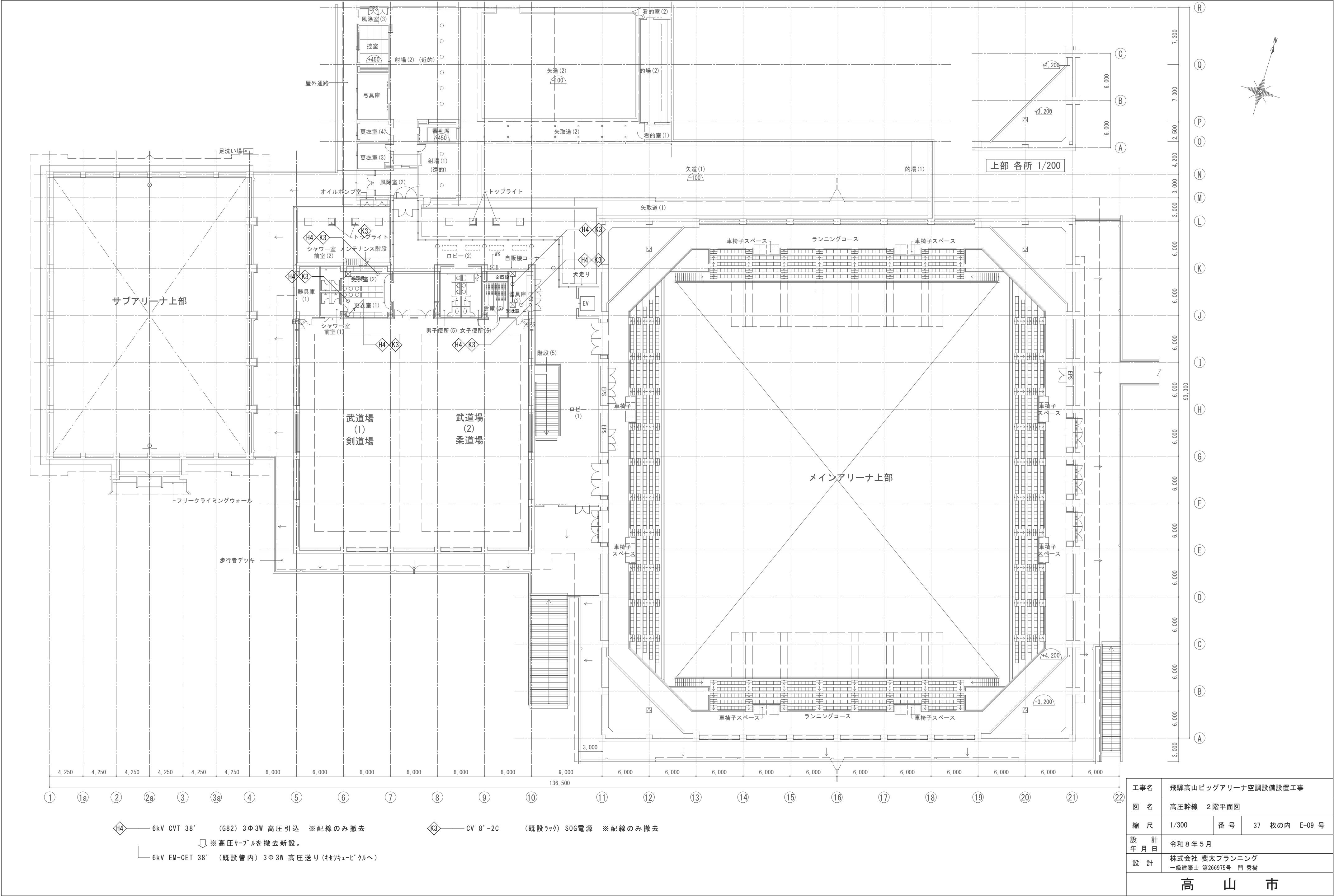
H4 6kV CVT 38' (G82) 3Φ3W 高圧引込 ※配線のみ撤去  
※高圧ケーブルを撤去新設。  
6kV EM-CET 38' (既設管内) 3Φ3W 高圧送り (キツキュービクルへ)

K1 CV 8'-2C (E31) S0G電源 (キツキュービクルより)  
※DGR用電源ケーブルを撤去し、警報用配線を入線  
EM-CEE 2'-6C (既設管内) 新設キュービクル警報

K2 EM-CEE 2'-6C (既設ラック) 新設キュービクル警報

K3 CV 8'-2C (既設ラック) S0G電源 ※配線のみ撤去

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	高圧幹線 1階平面図		
縮 尺	1/300	番 号	37 枚の内 E-08 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

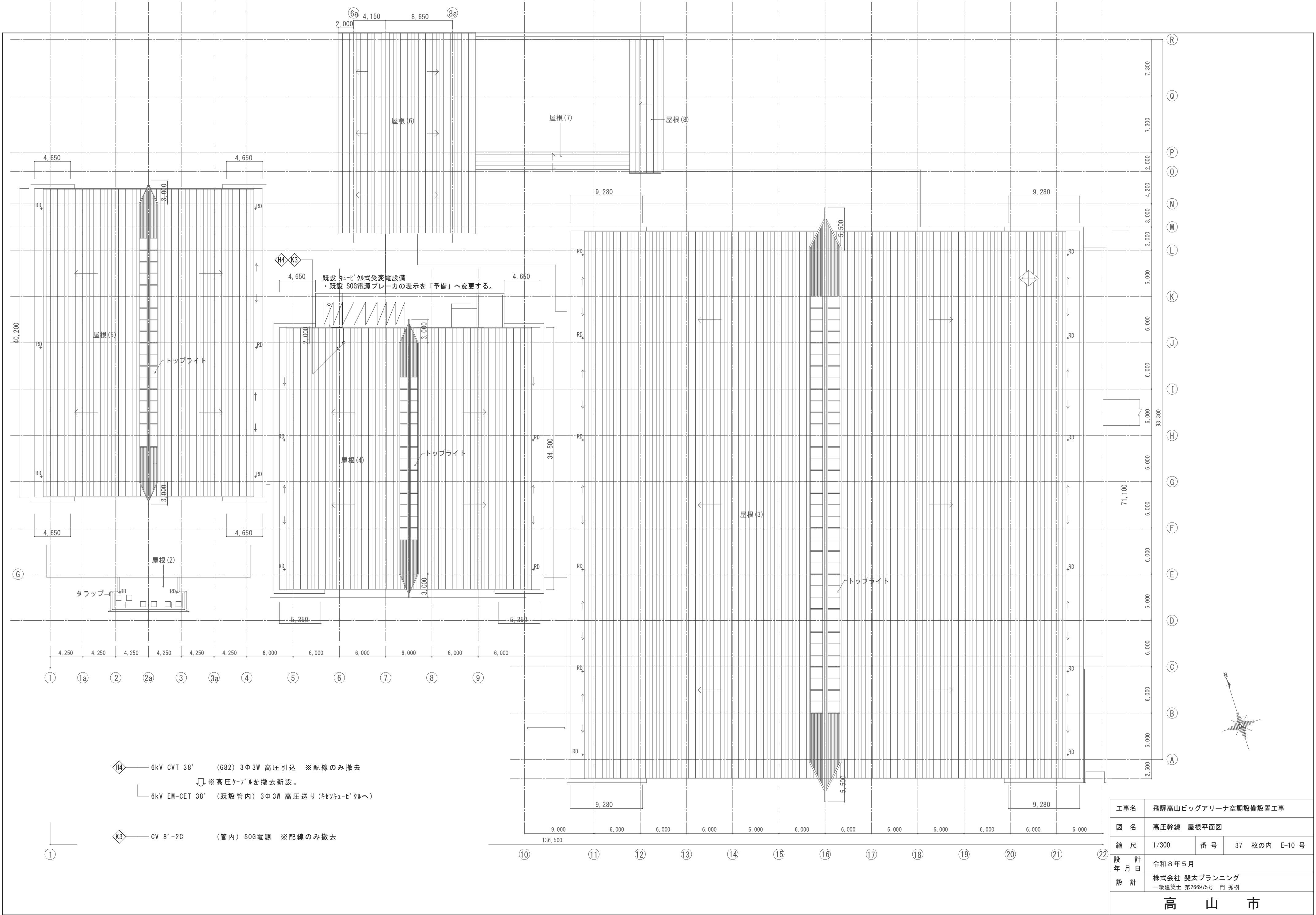


6kV CVT 38" (G82) 3Φ3W 高圧引込 ※配線のみ撤去
CV 8"×2C (既設ラック) S0G電源 ※配線のみ撤去

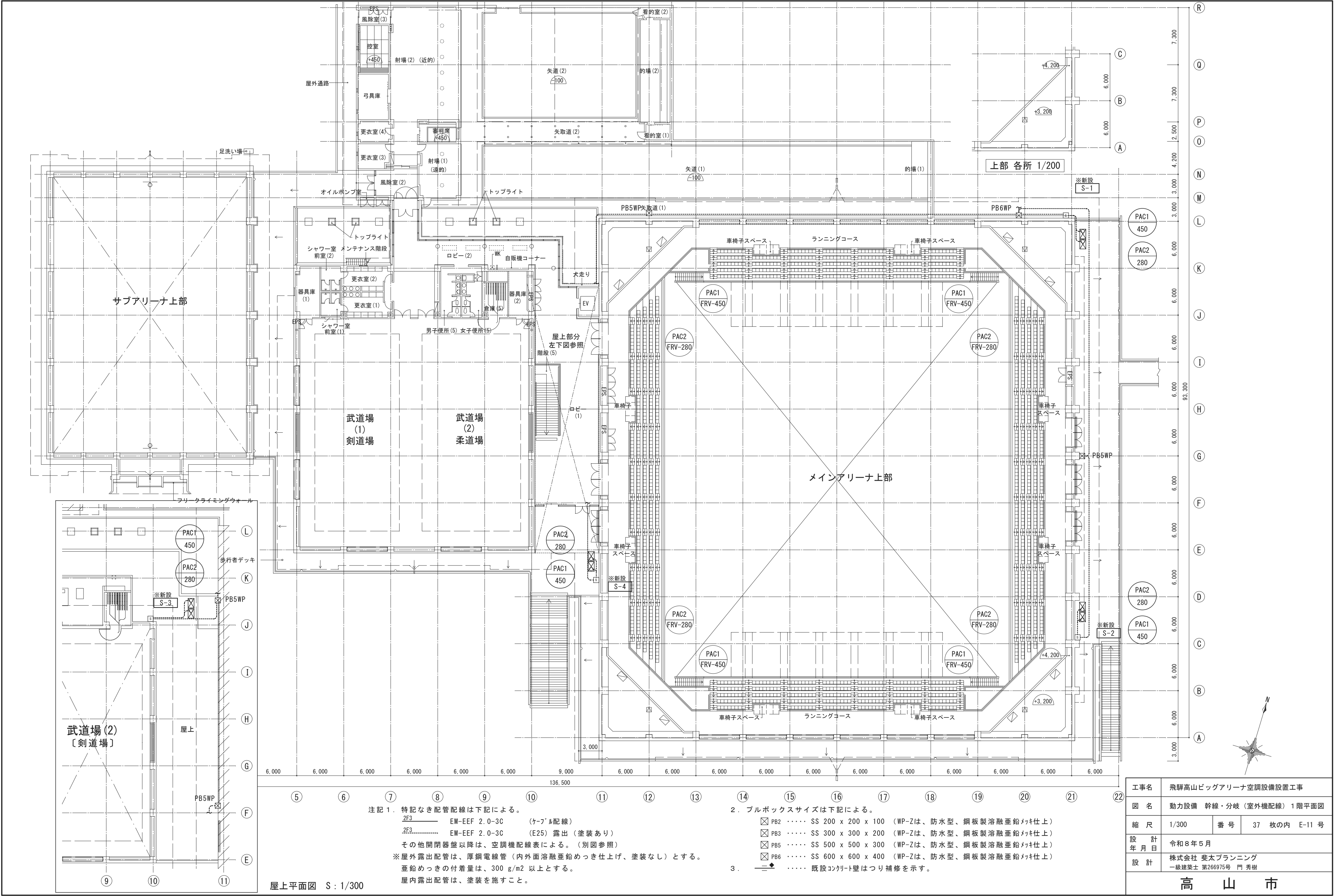
※高圧ケーブルを撤去新設。

6kV EM-CET 38" (既設管内) 3Φ3W 高圧送り (キセツキュービクルへ)

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	高圧幹線 2階平面図		
縮 尺	1/300	番 号	37 枚の内 E-09 号
設 計 年 月 日	令和 8 年 5 月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



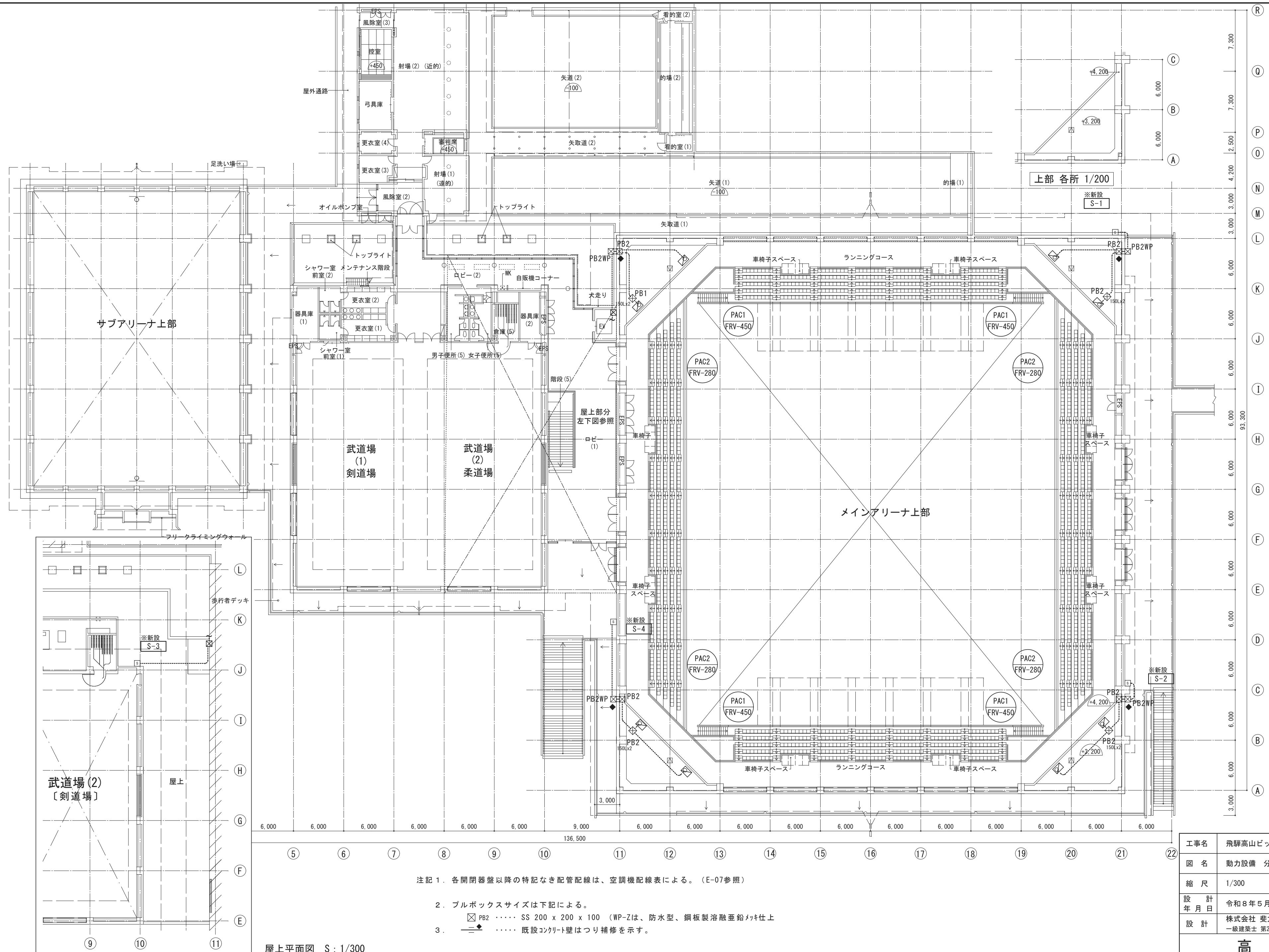




注記 1. 特記なき配管配線は下記による。  
2F3 ——— EM-EEF 2.0-3C (ケーブル配線)  
2F3 ..... EM-EEF 2.0-3C (E25) 露出 (塗装あり)  
その他開閉器盤以降は、空調機配線表による。(別図参照)  
※屋外露出配管は、厚銅電線管 (内外面溶融亜鉛めっき仕上げ、塗装なし) とする。  
亜鉛めっきの付着量は、300 g/m<sup>2</sup> 以上とする。  
屋内露出配管は、塗装を施すこと。

2. ブルボックスサイズは下記による。
- ☒ PB2 ..... SS 200 x 200 x 100 (WP-Zは、防水型、銅板製溶融亜鉛メッキ仕上)
  - ☒ PB3 ..... SS 300 x 300 x 200 (WP-Zは、防水型、銅板製溶融亜鉛メッキ仕上)
  - ☒ PB5 ..... SS 500 x 500 x 300 (WP-Zは、防水型、銅板製溶融亜鉛メッキ仕上)
  - ☒ PB6 ..... SS 600 x 600 x 400 (WP-Zは、防水型、銅板製溶融亜鉛メッキ仕上)
3. ——— 既設コンクリート壁はつり補修を示す。

工事名	飛騨高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	動力設備 幹線・分岐（室外機配線）1階平面図		
縮 尺	1/300	番 号	37 枚の内 E-11 号
設 計 年 月 日	令和8年5月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



工事名	飛驒高山ビッグアリーナ空調設備設置工事		
図 名	動力設備 分岐（室内機配線）2階平面図		
縮 尺	1/300	番 号	37 枚の内 E-12 号
設 計 年 月 日	令和8年5月		
設 計	株式会社 斐太プランニング 一級建築士 第266975号 門 秀樹		

高 山 市